

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

鳥 大 医 事 第 1 6 - 1 号
令 和 5 年 1 0 月 5 日
開設者名 国立大学法人鳥取大学
学長 中島 廣光

鳥取大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101
氏名	国立大学法人鳥取大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

鳥取大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒683-8504 鳥取県米子市西町36番地1
電話(0859)33-1111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科	○	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
○	9感染症内科	○	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							
内分泌内科及び代謝内科で提供される医療は内分泌代謝内科にて、神経内科で提供される医療は脳神経内科にて提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科					無		
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
外科で提供される医療は外科系各診療にて、乳腺外科及び内分泌外科で提供される医療は乳腺内分泌外科にて提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科					無	
歯科と組み合わせた診療科名						
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科	
歯科の診療体制						
本院は歯科医師を有する特定機能病院である。						

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	内分泌代謝内科	2	膠原病内科	3	乳腺内分泌外科	4	頭頸部外科	5	ペインクリニック外科
6	薬物療法内科	7	形成外科	8	腫瘍内科	9	脳神経小児科	10	病理診断科
11	リハビリテーション科	12	脳神経内科	13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位: 床)
40	2	6	0	649	697	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	355	54.2	409.2	看護補助者	68	診療エックス線技師	0
歯科医師	14	0.8	14.8	理学療法士	21	臨床検査技師	56
薬剤師	51	0	51	作業療法士	8	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	6	その他	0
助産師	49	0	49	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	833	10.9	843.9	臨床工学士	24	医療社会事業従事者	7
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	6
歯科衛生士	5	0	5	歯科技工士	2	事務職員	323
管理栄養士	11	0	11	診療放射線技師	43	その他の職員	43

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	50	眼科専門医	10
外科専門医	35	耳鼻咽喉科専門医	10
精神科専門医	9	放射線科専門医	15
小児科専門医	32	脳神経外科専門医	7
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	14
泌尿器科専門医	10	麻酔科専門医	9
産婦人科専門医	14	救急科専門医	9
		合計	231

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (武中 篤) 任命年月日 令和 5 年 4 月 1 日

医療事故防止等対策委員会 委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	543.8 人	8.7 人	552.5 人
1日当たり平均外来患者数	1513.4 人	81.1 人	1594.5 人
1日当たり平均調剤数	1119		剤
必要医師数	144		人

必要歯科医師数	7	人
必要薬剤師数	19	人
必要(准)看護師数	332	人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	582.6 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	病床数	28 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	188.1	m ²	病床数	19 床
	[移動式の場合]	台数	12	台		
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	28			m ²
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	453.2 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置、化学発光酵素免疫測定装置、電気化学発光免疫測定装置		
細菌検査室	97.2 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動同定感受性分析装置、血液培養装置、自動細菌同定検査装置		
病理検査室	93.3 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	臓器切り出し室、自動固定法包埋装置2台、自動染色機2台、凍結切片作成装置2台、自動免疫染色装置2台、		
病理解剖室	90 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、臓器保管庫、臓器乾燥室、御遺体用冷蔵庫		
研究室	1123 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	中央実験台、フリーザー、ドラフトチャンバー等		
講義室	406 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	318 人
図書室	1777 m ²	鉄筋コンクリート	室数	6 室	蔵書数	707,000 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	82.0	%	逆紹介率	101.9	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		11260 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16893 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2335 人		
	D: 初診の患者の数		16570 人		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
----	----	---------------	------	----------	---------------

福田 誠司	相山女学園大学看護学部 教授	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者として適任であるため。	無	1
中村 寿夫	中村法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者として適任であるため。	無	1
井上 俊之	NPO法人岡山SP研究会 理事		医療を受ける者で、かつ医療従事者以外であり、医療安全管理についての知識を有する者として適任であるため。	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院のホームページ及び大学のホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	20
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	2
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	19
先進医療の種類合計	3
扱い患者数の合計(人)	41

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類の合計数	1
取扱い患者数の合計(人)	0

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	0
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾 患 名		患者数		疾 患 名		患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	7	56	ベーチェット病		28
2	筋萎縮性側索硬化症	29	57	特発性拡張型心筋症		50
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	肥大型心筋症		4
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症		3
5	進行性核上性麻痺	32	60	再生不良性貧血		11
6	パーキンソン病	141	61	自己免疫性溶血性貧血		2
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症		2
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病		23
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病		1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群		3
11	重症筋無力症	72	66	IgA 腎症		31
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎		18
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	54	68	黄色靱帯骨化症		14
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	9	69	後縦靱帯骨化症		54
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症		1
16	クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症		14
17	多系統萎縮症	18	72	下垂体性ADH分泌異常症		15
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	31	73	下垂体性TSH分泌亢進症		0
19	ライソゾーム病	9	74	下垂体性PRL分泌亢進症		11
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病		3
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症		0
22	もやもや病	26	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		32
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症		72
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)		0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症		0
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症		4
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症		1
28	全身性アミロイドーシス	22	83	アジソン病		0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス		44
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎		43
31	ベスレムミオパチー	2	86	肺動脈性肺高血圧症		11
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症		0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症		9
34	神経線維腫症	28	89	リンパ脈管筋腫症		3
35	天疱瘡	13	90	網膜色素変性症		11
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群		4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	6	92	特発性門脈圧亢進症		2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)		36
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎		3
40	高安動脈炎	22	95	自己免疫性肝炎		20
41	巨細胞性動脈炎	4	96	クローン病		38
42	結節性多発動脈炎	9	97	潰瘍性大腸炎		121
43	顕微鏡的多発血管炎	23	98	好酸球性消化管疾患		2
44	多発血管炎性肉芽腫症	10	99	慢性特発性偽性腸閉塞症		0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	14	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症		0
46	悪性関節リウマチ	6	101	腸管神経節細胞減少症		0
47	バージャヤー病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群		0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群		0
49	全身性エリテマトーデス	144	104	コステロ症候群		0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	72	105	チャージ症候群		0
51	全身性強皮症	68	106	クリオピリン関連周期熱症候群		0
52	混合性結合組織病	25	107	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)		9
53	シェーグレン症候群	37	108	TNF受容体関連周期性症候群		0
54	成人スチル病	16	109	非典型溶血性尿毒症症候群		0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群		0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	1	161 家族性良性慢性天疱瘡	0
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	12
113 筋ジストロフィー	8	163 特発性後天性全身性無汗症	0
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164 眼皮膚白皮症	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0	165 肥厚性皮膚骨膜炎	0
116 アトピー性脊髄炎	2	166 弾性線維性仮性黄色腫	1
117 脊髄空洞症	0	167 マルフアン症候群	7
118 脊髄髄膜瘤	0	168 エーラス・ダンロス症候群	0
119 アイザックス症候群	1	169 メンケス病	0
120 遺伝性ジストニア	0	170 オクシピタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0	171 ウィルソン病	1
122 脳表ヘモジデリン沈着症	0	172 低ホスファターゼ症	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173 VATER症候群	0
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	174 那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175 ウィーバー症候群	0
126 ペリー症候群	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	0	177 ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178 モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179 ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	180 ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0	181 クルーゾン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0	182 アペール症候群	0
133 メビウス症候群	0	183 ファイファー症候群	0
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184 アントレー・ビクスラー症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	185 コフィン・シリス症候群	0
136 片側巨脳症	0	186 ロスモンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	1	187 歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	0	188 多脾症候群	0
139 先天性大脳白質形成不全症	0	189 無脾症候群	0
140 ドラベ症候群	0	190 鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191 ウェルナー症候群	0
142 ミオクロニー欠伸てんかん	0	192 コケイン症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193 プラダー・ウィリ症候群	2
144 レノックス・ガストー症候群	0	194 ソース症候群	0
145 ウェスト症候群	0	195 ヌーナン症候群	1
146 大田原症候群	0	196 ヤング・シンプソン症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	0	197 1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198 4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199 5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	1
151 ラスムッセン脳炎	0	201 アンジェルマン症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0	202 スミス・マギニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	2	203 22q11.2欠失症候群	0
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204 エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	1	205 脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	0	206 脆弱X症候群	0
157 スタージ・ウェーバー症候群	0	207 総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	4	208 修正大血管転位症	0
159 色素性乾皮症	0	209 完全大血管転位症	2
160 先天性魚鱗癬	1	210 単心室症	2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	3	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	5	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	17	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	10
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	6
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	40

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクロオスフェンカン	0	321	非ケトース型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	1
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	2
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
			334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	0
			336	家族性低βリポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	0
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	121
合計患者数(人)	1895

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・報告書管理体制加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料	・呼吸ケアチーム加算
・救急医療管理加算	・術後疼痛管理チーム加算
・超急性期脳卒中加算	・後発医薬品使用体制加算1
・診療録管理体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算1
・医師事務作業補助体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算2
・急性期看護補助体制加算	・データ提出加算
・看護職員夜間配置加算	・入退院支援加算
・看護補助加算	・認知症ケア加算
・療養環境加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算1	・精神科急性期医師配置加算
・無菌治療室管理加算2	・排尿自立支援加算
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・地域医療体制確保加算
・緩和ケア診療加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・精神病棟入院時医学管理加算	・救命救急入院料3
・精神科身体合併症管理加算	・救命救急入院料4
・精神科リエゾンチーム加算	・特定集中治療室管理料1
・摂食障害入院医療管理加算	・特定集中治療室管理料3
・栄養サポートチーム加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・医療安全対策加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・感染対策向上加算1	・小児入院医療管理料1
・患者サポート体制充実加算	・看護職員処遇改善評価料66
・重症患者初期支援充実加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・角結膜悪性腫瘍切除手術
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜炎に係るものに限る。))
・糖尿病合併症管理料	・角膜移植術(内皮移植加算)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・羊膜移植術
・がん患者指導管理料イ	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・がん患者指導管理料ロ	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))
・がん患者指導管理料ハ	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・がん患者指導管理料ニ	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・外来緩和ケア管理料	・人工中耳植込術
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・糖尿病透析予防指導管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・小児運動器疾患指導管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・婦人科特定疾患治療管理料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・一般不妊治療管理料	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・腎代替療法指導管理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・生殖補助医療管理料2	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・二次性骨折予防継続管理料1	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・二次性骨折予防継続管理料3	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・下肢創傷処置管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・院内トリアージ実施料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・外来放射線照射診療料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・外来腫瘍化学療法診療料1	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・連携充実加算	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ニコチン依存症管理料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・がん治療連携計画策定料	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来排尿自立指導料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・こころの連携指導料(Ⅱ)	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・薬剤管理指導料	・内視鏡下筋層切開術
・地域連携診療計画加算	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔、胆嚢穿孔、胃底閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)結腸閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管結腸閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱結腸閉鎖術(内視鏡によるもの)、胆嚢結腸閉鎖術(内視鏡によるもの)
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・医療機器安全管理料1	・胸腔鏡下弁形成術
・医療機器安全管理料2	・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・医療機器安全管理料(歯科)	・胸腔鏡下弁置換術
・精神科退院時共同指導料1及び2	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・歯科治療時医療管理料	・経皮的僧帽弁クリップ術
・禁煙治療補助システム指導管理加算	・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	・経皮的中隔心筋焼灼術
・在宅酸素療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・遺伝学的検査	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・骨髄微小残存病変量測定	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・BRCA1／2遺伝子検査	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・がんゲノムプロファイリング検査	・補助人工心臓
・先天性代謝異常症検査	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・経皮的下肢動脈形成術
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術

・国際標準検査管理加算	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・胎児心エコー法	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・ヘッドアップティルト試験	・腹腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・人工膵臓検査、人工膵臓療法	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・体外衝撃波胆石破砕術
・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)	・腹腔鏡下肝切除術
・脳波検査判断料1	・体外衝撃波膵石破砕術
・神経学的検査	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・コンタクトレンズ検査料1	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・小児食物アレルギー負荷検査	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・内服・点滴誘発試験	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経気管支凍結生検法	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・画像診断管理加算1	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・画像診断管理加算2	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・ポジトロン断層撮影	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・CT撮影及びMRI撮影	・同種死体腎移植術
・冠動脈CT撮影加算	・生体腎移植術
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・外傷全身CT加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・心臓MRI撮影加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・乳房MRI撮影加算	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・小児鎮静下MRI撮影加算	・人工尿道括約筋植込・置換術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)

・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算1	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・がん患者リハビリテーション料	・体外式膜型人工肺管理料
・リンパ浮腫複合的治療料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・経頭蓋磁気刺激療法	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・輸血管理料Ⅰ
・療養生活継続支援加算	・輸血適正使用加算
・精神科作業療法	・コーディネート体制充実加算
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・同種クリオプレシピテート作製術
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・医療保護入院等診療料	・歯周組織再生誘導手術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・人工腎臓	・麻酔管理料(Ⅱ)
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・周術期薬剤管理加算
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・放射線治療専任加算
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・外来放射線治療加算
・磁気による膀胱等刺激法	・高エネルギー放射線治療
・CAD／CAM冠及びCAD／CAMインレー	・一回線量増加加算
・歯科技工加算1及び2	・強度変調放射線治療(IMRT)
・センチネルリンパ節加算	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・自家脂肪注入	・体外照射呼吸性移動対策加算
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・定位放射線治療
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・画像誘導密封小線源治療加算
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製

・椎間板内酵素注入療法	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・腫瘍脊椎骨全摘術	・病理診断管理加算2
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・口腔病理診断管理加算2
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術 (過活動膀胱)	・歯科矯正診断料
	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	呼吸器外科・乳腺外科(合同): 週1回 泌尿器科・放射線科(合同): 月1回 女性診療科・放射線科(合同): 月1回 血液内科: 月1回 各科とのCPC: 月1～2回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	13
	剖検率(%)	3.6

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
微小管ダイナミクスに着目した食道癌の新規治療法開発	藤原 義之	消化器・小児外科学	1,820,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胃癌腹膜転移の治療抵抗性に関与するメカニズムの解明	松永 知之	消化器・小児外科学	1,560,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
腎癌の術後補助療法に関する患者選別のバイオマーカーとなるmicroRNAの同定	岩本 秀人	腎泌尿器学	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Alzheimer型認知症の機能的排泄障害における中枢性アンジオテンシンⅡの関与	川本 文弥	腎泌尿器学	1,430,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
βヒドロキシ酪酸を用いた小児期自閉スペクトラム症の病態解析	梶谷 直史	精神行動医学	2,210,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
HSPによる心臓eNOS活性化の分子解明と薬理学的プレコンディショニングの開発	湊 弘之	麻酔科	1,690,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
DNA損傷修復能による小細胞肺癌に対する個別化医療の確立	牧野 晴彦	呼吸器・膠原病内科学	130,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
薬剤関連顎骨壊死における新規細胞医薬治療戦略	奈良井 節	口腔顎顔面外科学	1,430,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
子宮内膜症発生仮説としての「子宮内膜移植説」の解明:腹膜由来分子の役割に注目して	谷口 文紀	産科婦人科学	1,560,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
子宮内膜症の病変組織に特徴的なエストロゲン受容体発現を標的とする新規治療薬の開発	伊澤 正郎	産科婦人科学	1,950,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
眼感染症病巣のRNAシーケンス網羅解析による病態解明	井上 幸次	視覚病態学	1,430,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
人工知能(AI)による感染性角膜炎診断支援システムの戦略的開発	宮崎 大	視覚病態学	1,040,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
超音波ドブラ法による新しい声帯病変の良悪性診断法の確立	福原 隆宏	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	650,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
頭頸部癌を標的としたセラミドリポソーム製剤による治療探索	藤原 和典	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,950,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
PHD阻害剤を用いたがん微小環境の改善による頭頸部癌新規治療戦略の開発	小山 哲史	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,690,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
次世代シーケンサーによる小児不応性血球減少症の成因解明と新規診断・治療への挑戦	奥野 啓介	周産期・小児医学	1,820,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
網羅的解析による、インスリン様成長因子-1不応症の成長障害の分子基盤解明	難波 範行	周産期・小児医学	1,690,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
心不全地域連携のためのスタッフ学習プログラムに関する研究	衣笠 良治	循環器・内分泌代謝内科学	1,040,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
エクソソーム解析によるインスリン抵抗性の分子病態の解明	大倉 毅	循環器・内分泌代謝内科学	1,690,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
血管新生因子を添加した脂肪細胞由来再生細胞シートを用いた新しい心筋再生療法の開発	西村 元延	心臓血管外科学	1,430,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪細胞由来幹細胞exosomeを用いた新規cell-free心筋再生療法の開発	吉川 泰司	心臓血管外科学	1,560,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
キチナナノファイバーを用いた即効性手術用止血剤の開発	武中 篤	腎泌尿器学	1,690,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
膜融合性リポソームを用いたSKチャネル開口薬膀胱内注入の確立	本田 正史	腎泌尿器学	1,560,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
βヒドロキシ酪酸の抗うつメカニズムの解明と炎症標的新規抗うつ薬としての臨床開発	岩田 正明	精神行動医学	5,850,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
健診・医療・介護一体型ビッグデータの推移から介護予防対象者を把握する指標の探索	浜田 紀宏	地域医療学	1,040,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
地域におけるエンバシー教育プログラムの開発とコミュニティウェルビーイングへの影響	孫 大輔	地域医療学	1,170,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
血液腫瘍診療の連続性向上のための適切な医師間連携ツールの研究開発	今岡 慎太郎	地域医療学	1,170,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
文化人類学の知見を活かした総合診療専門医の教育方法の構築	谷口 晋一	地域医療学	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
小児てんかんへの頭皮脳波周波数解析によるてんかん分類方法の確立	岡西 徹	脳神経小児科学	1,690,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
神経可塑性を用いた神経変性疾患の臨床的指標の確立	花島 律子	脳神経内科学	1,560,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
筋萎縮性側索硬化症の神経心理・神経放射線学的検討(言語評価法の開発を含めて)	渡辺 保裕	脳神経内科学	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
認知的負荷の時間割引の行動・神経機構の解明および先延ばし・アパシーの横断的説明	永瀬 麻子	脳神経内科学	1,040,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
パーキンソン症候群におけるChromogranin Bなどバイオマーカー臨床応用	瀧川 洋史	脳神経内科学	1,820,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
COVID-19に対する可溶性ULBP2制御によるNK細胞療法の開発	千酌 浩樹	臨床感染症学	1,560,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
菌血症診断における次世代シーケンサーを用いた複数セット検査の意義の解明	北浦 剛	感染症内科	2,730,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
免疫チェックポイント阻害薬によるirAEの発症予測および診断のバイオマーカー探索	矢内 正晶	がんセンター	1,040,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
筋質はCKD患者の予後規定因子となるか?	前 ゆかり	高次集中治療部	910,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
在宅酸素療法を可能にする自動酸素流量調整装置の開発のための基盤研究	山本 章裕	高度救命救急センター	1,430,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
口腔扁平上皮癌患者の不良予後に関与するMaspinの分子機構の解明	川崎 誠	歯科口腔外科	1,950,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
呼吸室酸化物計測の侵襲時のモニタリングとしての有用性と早期介入への応用	船木 一美	手術部	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業

児童青年期ゲーム障害患者の症状形成過程解明に向けた類型化と養育者調査	大立 博昭	精神科	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ケトン体はうつ病、PTSDの新たな治療となるか	山梨 豪彦	精神科	2,080,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
術中マイクロドップラーを用いたもやもや病バイパス術後の過灌注症候群の予測法の開発	鳥橋 孝一	脳神経外科学	1,040,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
筋萎縮性側索硬化症に対するチオレドキシンの抗酸化機構の解明と新規治療薬の開発応用	北尾 慎一郎	放射線科	1,040,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
高血糖に応答する新規炎症細胞を介した急性呼吸窮迫症候群の発症・重篤化機構の解明	倉敷 達之	麻酔・集中治療医学	2,340,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
TDMによる睡眠薬適正使用推進と薬局での臨床応用を目指した基盤構築	藤吉 正哉	薬剤部	2,080,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
腰部脊柱管狭窄症の腰椎動作解析に基づいた生活指導プログラムの開発	和田 崇	リハビリテーション部	480,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
算数障害中核的症候への早期介入プログラムとトレーニングアプリの効果	大羽 沢子	ワークライフバランス 支援センター	520,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
細胞関連因子を介した血管内皮の分化及び脈絡膜新生血管発生機序の探索	馬場 高志	眼科	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
感染による角膜内皮細胞の機能変換の病態解明	春木 智子	眼科	390,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
乳癌患者の予後不良に関与するMaspinの局在と機能との関連性の解明	若原 誠	胸部外科診療科群	1,820,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肺高悪性度神経内分泌癌の分子標的治療と免疫療法による新規治療開発と耐性機序の解析	春木 朋広	胸部外科診療科群	1,950,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
大網と脂肪由来幹細胞を用いた新たな乳房再建の試み	八木 俊路朗	形成外科	1,430,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
Vault RNAと造血能の関連性	畑山 祐輝	検査部	460,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
合成レチノイドは新たな子宮内膜症治療薬として有効か	東 幸弘	女性診療科群	1,040,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
センダイウイルスによる可逆的不死化卵巣癌細胞株の樹立と性状解析	小松 宏彰	女性診療科群	1,040,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
PAPP-A2を介したIGF-1の生体利用率調節と出生時体格の関係性解明	藤本 正伸	小児科	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
低真空走査電子顕微鏡による移植腎抗体関連型拒絶反応の早期診断方法の新規開発	横山 浩己	小児科	2,340,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ラットの着床前胚におけるミトコンドリア活性に関する研究	中村 和臣	新規医療研究推進セ ンター	1,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
消化器内視鏡領域における、光線力学的診断(PDD)の応用と疾病予測AIの開発	藤井 政至	新規医療研究推進セ ンター	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
変形性関節症の組織学的病態解明に基づく血管新生阻害薬の開発	柳樂 慶太	整形外科	2,080,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
キチンナノファイバーを用いた脊髄損傷治療	三原 徳満	整形外科	910,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ラット坐骨神経損傷モデルに対するキチンナノファイバーの神経再生促進効果	金谷 治尚	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
細胞極性シグナルの破綻に伴うYAP/TAZ経路の活性化を介した肺癌進展機構の解明	花木 武彦	第一外科診療科群	2,340,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規チロシンキナーゼ受容体による肺癌の薬剤治療抵抗性メカニズムの解明と治療応用	山本 学	第一外科診療科群	650,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
キチンナノファイバーのTGF-β/Smad経路を介した肝切後胆汁漏予防効果の検討	徳安 成郎	第一外科診療科群	780,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肺癌における制御性Bリンパ球とアデノシン産生酵素(CD39、CD73)の検討	村上 裕樹	第一外科診療科群	2,080,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
性腺機能の老化と心房細動発症の関連の解明	加藤 克	第一内科診療科群	1,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
血液中の自己抗体を用いた難治性内分泌腫瘍の新規悪性度判定法開発	伊澤 正一郎	第一内科診療科群	1,040,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
経口内視鏡的食道筋層生検術によるアカシア発症機序の解明	池淵 雄一郎	第二内科診療科群	910,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
YAP/TAZ同時阻害を標的とした胆道がんの新規治療の創薬研究	杉原 誉明	第二内科診療科群	1,950,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
糖尿病性腎症における新しい非侵襲的な蛍光検査手法の確立	井山 拓治	第二内科診療科群	2,340,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
声帯瘻痕に対する脂肪由来間葉系幹細胞調整培養液の局所投与	森崎 剛史	頭頸部診療科群	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
初発膠芽腫のベバシズマブ治療効果に関与する遺伝子と画像評価法の確立	神部 敦司	脳神経外科	1,170,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
急性脳症モデル動物に対するMuse細胞の治療効果	川口 達也	脳神経小児科	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
染色体工学技術を利用した膀胱がんの発がんと進展過程における分子メカニズムの解明	清水 龍太郎	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
手術用鉗子における電磁ノイズ等の影響を受けない圧光干渉による力覚センサ機構の確立	森實 修一	泌尿器科	1,950,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
染色体工学的アプローチによるクラインフェルター症候群の原因遺伝子同定	西川 結梨	泌尿器科	1,040,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
I-131内用療法後の唾液腺障害に対してビタミンBは有用か？	北川 寛	放射線治療科	1,040,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
機械学習を用いた頭頸部癌術後放射線治療におけるリンパ領域自動描出法の確立	吉田 賢史	放射線治療科	1,040,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
浸水被害も含めた、新たな医療機関の事業継続計画(BCP)策定に資する研究	本間 正人	救急・災害医学	1,503,000	補委	厚生労働省 地域医療基盤開発推進研究事業
神経変性疾患領域の基盤的調査研究	花島 律子	脳神経内科学	700,000	補委	厚生労働省 難治性疾患政策研究事業
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	難波 範行	周産期・小児医学	550,000	補委	厚生労働省 難治性疾患政策研究事業
小児急性脳症の早期診断・最適治療・ガイドライン策定に向けた体制整備	前垣 義弘	脳神経小児科学	600,000	補委	厚生労働省 難治性疾患政策研究事業

神経皮膚症候群におけるアンメットニーズを満たす多診療科連携診療体制の確立	吉田 雄一	皮膚科学	1,000,000	補 委	厚生労働省 難治性疾患政策研究事業
運動失調症の医療水準、患者QOLの向上に資する研究班	花島 律子	脳神経内科学	700,000	補 委	厚生労働省 難治性疾患政策研究事業
ライゾソーム病、ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを含む)における良質かつ適切な医療の実現に向けた体制の構築とその実装に関する研究	成田 綾	脳神経小児科	600,000	補 委	厚生労働省 難治性疾患政策研究事業
大規模災害時における地域連携を踏まえた更なる災害医療提供体制強化に関する研究	本間 正人	救急・災害医学	300,000	補 委	厚生労働省 地域医療基盤開発推進研究事業
先天性骨系統疾患の医療水準と患者QOLの向上を目的とした研究	難波 範行	周産期・小児医学	500,000	補 委	厚生労働省 難治性疾患政策研究事業
副腎性クッシング症候群・サブクリニカルクッシング症候群における合併症治療指針の作成	伊澤 正一郎	第一内科診療科群	50,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究(J-DREAMS)	大倉 毅	第一内科診療科群	300,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
cT1,cN0,cM0の完全埋没型腎腫瘍の患者を対象にda Vinciサージカルシステムを用いた腎部分切除術の有効性を評価する多施設共同非盲検単群臨床研究	武中 篤	腎泌尿器学	110,000	補 委	国立大学法人神戸大学 受託研究費
FREDを用いた脳動脈瘤に対するフローダイバーター留置術の市販後初期経験に関する多施設共同登録研究(JAPAN FRED PMS)	坂本 誠	脳神経外科学	80,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究	森田 正人	第三内科診療科群	200,000	補 委	国立大学法人東海国立大学機構 受託研究費
EGFR遺伝子L858R変異陽性進行再発非扁平上皮非小細胞肺癌に対するエルロチニブ＋ラムシルマブとオンメルチニブを比較する第Ⅲ相臨床試験(REVOL858R trial)(WJOG14420L)	阪本 智宏	第三内科診療科群	1,100,000	補 委	国立研究開発法人 国立がん研究センター 受託研究費
皮膚腫瘍の臨床情報と紐づけた臨床画像データの提供(多施設共同研究)	吉田 雄一	皮膚科学	3,956,000	補 委	国立大学法人信州大学 受託研究費
進行・再発非小細胞肺癌のバイオマーカー検査と標的治療に関する実態調査プロジェクト(REVEAL trial)(WJOG15421L)	阪本 智宏	第三内科診療科群	1,518,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
爪甲色素線条画像データセットの構築	吉田 雄一	皮膚科学	125,000	補 委	国立大学法人信州大学 受託研究費
国産手術支援ロボットhinotoriを用いた根治的前立腺全摘除術の前向き観察研究	武中 篤	泌尿器科	715,000	補 委	国立大学法人神戸大学 受託研究費
J-CAT及びJ-CAT PRIMEを活用した純粋小脳型脊髄小脳変性症のヒストリカルデータの収集	花島 律子	脳神経内科学	143,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
「循環器疾患診療実態調査(JROAD)のデータベースによる心臓サルコイドシスの診療実態調査と二次 調査に基づく診断・治療プロトコルの策定に関する研究」(MYSTICS)	衣笠 良治	循環器・内分泌代謝内科学	3,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
COVID-19退院1年後の健康状態に関する調査研究	舟木 佳弘	高次集中治療部	14,300	補 委	国立大学法人高知大学 受託研究費
患者レジストリを活用した筋萎縮性側索硬化症治療薬開発のための第2相医師主導治験(責任医師としての治験・臨床研究の実施)	渡辺 保裕	脳神経内科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
小児ウイルス性肝炎患者の病態進展評価及び治療選択に関する研究開発(小児C型慢性肝炎に対するDAA治療に関する研究)	村上 潤	小児科	390,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
成人T細胞白血病/リンパ腫の治癒を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立: 薬事承認を目的とした第Ⅱ相医師主導治験(ATLに対するTax標的樹状細胞ワクチン療法の医師主導治験の実施)	福田 哲也	血液内科	650,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
EGFR 遺伝子変異陽性の進行非小細胞肺癌におけるEGFR 阻害薬耐性機序(C797S 耐性変異)を克服する新規治療法の確立を目指した研究(医師主導治験・遺伝子スクリーニング・付随研究の実施)	阪本 智宏	第三内科診療科群	171,600	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
進行肺癌の血漿遊離DNAを利用したマルチ遺伝子解析法に基づく個別化医療の確立を目指した研究(医師主導治験・付随研究の実施)	阪本 智宏	第三内科診療科群	390,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
ROSI融合遺伝子陽性の進行固形がんに対する治療開発を目指した研究(ROSI融合遺伝子陽性の進行固形がん患者を対象とした、ブリグチニブの多施設共同バスケット試験(医師主導治験)。遺伝子スクリーニング、コンパニオン診断薬の開発および臨床ゲノムデータベースの構築)	小谷 昌広	がんセンター	520,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
新生児マススクリーニング対象拡充のための疾患選定基準の確立(新規候補疾患の新生児マススクリーニングに関する調査研究)	成田 綾	脳神経小児科	260,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)):希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究(中国地区における未診断疾患に対する診断体制の構築に関する研究)	前垣 義弘	遺伝子診療科	3,510,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
Niemann-Pick 病C 型に対する遺伝子治療開発(AAVベクターによるライゾソーム病、Niemann-Pick病に対する遺伝子治療法開発)	成田 綾	脳神経小児科	2,600,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
進行性核上性麻痺と大脳皮質基底核変性症を対象とした多施設共同前向きコホート研究による質の高い診療エビデンスの構築	花島 律子	脳神経内科学	2,756,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
中性脂肪蓄積心筋血管症の診療に直結するエビデンス創出研究(レジストリ構築、症例の探索・登録、診療ガイドライン策定に資するエビデンス創出)	山本 一博	循環器・内分泌代謝内科学	130,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
高感度変異解析技術を用いた「胃カメラしながら膵がん検診」の社会実装に係る研究開発(新しい十二指腸洗浄液回収カテーテルと合成ヒトセクレチンを用いた検査法の検証試験とハイリスク群を対象とした実証試験)	松本 和也	消化器・腎臓内科学	3,250,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
ライフステージに応じた子宮内膜症の予防・治療のためのエビデンスの創出(子宮内膜症による健康問題の予防・治療法の確立のための患者レジストリ調査)	原田 省	医学部附属病院	1,300,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
前眼部疾患AI診断支援システムに関する研究開発(スマートフォンなど非医療機器画像への適応)	宮崎 大	視覚病態学	2,240,420	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
手術支援ロボットを用いた遠隔手術の実現に向けた実証研究(遠隔手術実施のためのガイドライン改訂に向けた実証研究成果の反映)	中村 廣繁	呼吸器・乳腺内分泌外科学	429,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
次世代医療機器連携拠点整備等事業	原田 省	医学部附属病院	20,665,788	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費

合計 118件
計 174,570,108 円

- (注)
- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なもの記入すること。
 - 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
 - 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hanaki T, Sunaguchi T, Goto K, et al.	第一外科診療科群	The Significance of Surgical Intervention for Metasynchronous Liver Metastasis in Gastric Cancer: A Single-centre Analysis	Anticancer Res. 2022 Apr;42(4):2177-2184	Original Article
2	Nakanishi A, Haruki T, Nakamura H.	胸部外科診療科群	Cowboy technique for solitary fibrous tumor of the pleura via single-port video-assisted thoracoscopic surgery	Asian J Endosc Surg. 2022 Apr;15(2):472-473. Epub 2021 Sep 15.	Letter
3	Morizane S, Yumioka T, Iwamoto H, et al.	泌尿器科	Initial Experience of Robot-Assisted Laparoscopic Nephroureterectomy in Japan: A Useful Technique Using a Vessel Sealing Device for Securing a Good Surgical Field and Efficient Sealing	Asian J Endosc Surg. 2022 Apr;15(2):458-462. Epub 2021 Dec 7.	Others
4	Yagyu T, Yamamoto M, Tanio A, et al.	第一外科診療科群	Risk factors for recurrence in elderly patients with stage II colorectal cancer: a multicenter retrospective study	BMC Cancer. 2022 Apr 11;22(1):390	Others
5	Matsunaga T, Saito H, Kuroda H, et al.	第一外科診療科群	CA19-9 in combination with P-CRP as a predictive marker of immune-related adverse events in patients with recurrent or unresectable advanced gastric cancer treated with nivolumab	BMC Cancer. 2022 Apr 15;22(1):418	Original Article
6	Shishido Y, Matsunaga T, Makinoya M, et al.	第一外科診療科群	Circular stapling anastomosis with indocyanine green fluorescence imaging for cervical esophagogastric anastomosis after thoracoscopic esophagectomy: a propensity score-matched analysis	BMC Surg. 2022 Apr 29;22(1):152.	Original Article
7	Kobara S, Okamura A, Kato M, et al.	第一内科診療科群	Severe Tricuspid Regurgitation With Chordae Tendinae Rupture After Leadless Pacemaker Implantation	Circ J. 2022 Apr 25;86(5):880.Epub 2021 Dec 25.	Others
8	Kinugasa Y, Nakamura K, Kamitani H, et al.	第一内科診療科群	Left ventricular mass index-to-QRS-voltage ratio predicts outcomes in heart failure with preserved ejection fraction	ESC Heart Fail. 2022 Apr;9(2):1098-1106.Epub 2022 Jan 25.	Original Article
9	Morizane S, Honda M, Shimizu R, et al.	泌尿器科	Extent of pelvic lymph node dissection improves early oncological outcomes for patients with high-risk prostate cancer without lymph node involvement after robot-assisted radical prostatectomy	Int J Clin Oncol. 2022 Apr;27(4):781-789. Epub 2022 Jan 25.	Original Article
10	Matsumoto K, Izawa S, Fukaya K, et al.	第一内科診療科群	Hyperthyroidism in Graves Disease Causes Sleep Disorders Related to Sympathetic Hypertonia	J Clin Endocrinol Metab. 2022 Apr 19;107(5):e1938-e1945.	Original Article
11	Yamaga K, Kuwamoto S, Tanishima S, et al.	整形外科	An unresectable osteoblastoma of the axis controlled with denosumab	J Orthop Sci. 2022 Apr 22:S0949-2658(22)00079- 3.	Case report
12	Okamura A, Miake J, Tomomori T, et al.	第一内科診療科群	Thrombin induces a temporal biphasic vascular response through the differential phosphorylation of endothelial nitric oxide synthase via protease-activated receptor-1 and protein kinase C	J Pharmacol Sci. 2022 Apr;148(4):351-357. Epub 2022 Feb 11.	Original Article
13	Haruki T, Matsui S, Oshima Y, et al.	胸部外科診療科群	Prognostic impact of surgical treatment for high-grade neuroendocrine carcinoma of the lung: a multi- institutional retrospective study	J Thorac Dis. 2022 Apr;14(4):1070-1078.	Original Article
14	Teramoto K, Kuwata S.	医療情報部	Design and Evaluation of a Smartphone Medical Guidance App for Outpatients of Large-Scale Medical Institutions: Retrospective Observational Study	JMIR Form Res. 2022 Apr 21;6(4):e32990.	Original Article
15	Matsui S, Haruki T, Oshima Y, et al.	胸部外科診療科群	High mRNA expression of POU2F3 in small cell lung cancer cell lines predicts the effect of lurbinectedin	Thorac Cancer. 2022 Apr;13(8):1184-1192. Epub 2022 Mar 12.	Original Article
16	Kadonaga T, Sakabe T, Kidokoro Y, et al.	高次集中治療部	Gene expression profiling using targeted RNA- sequencing to elucidate the progression from histologically normal lung tissues to non-invasive lesions in invasive lung adenocarcinoma	Virchows Arch. 2022 Apr;480(4):831-841.Epub 2022 Jan 24.	Others
17	Enokida S, Nawata K, Kuroda H, et al.	整形外科	Brachial Artery Dissection Caused by Closed Elbow Dislocation in a Snowboarder: A Case Report and Review of Literature	Yonago Acta Med. 2022 Apr 22;65(2):166-170. eCollection 2022 May.	Case report
18	Sueda Y, Okazaki R, Funaki Y, et al.	高次集中治療部	Specialized Pro-Resolving Mediators Do Not Inhibit the Synthesis of Inflammatory Mediators Induced by Tumor Necrosis Factor- α in Synovial Fibroblasts	Yonago Acta Med. 2022 Apr 22;65(2):111-125. eCollection 2023 Apr.	Original Article
19	Yamane H, Honda M, Shimizu R, et al.	泌尿器科	Endoscopic Ablation of Upper Tract Urothelial Carcinoma: A Report of Two Cases with Long Disease Recurrence-Free Periods	Yonago Acta Med. 2022 Apr 23;65(2):171-175. eCollection 2022 May.	Case report
20	Ikeda S, Sugihara T, Kihara T, et al.	第二内科診療科群	Chronic Active Epstein-Barr Virus Infection Indistinguishable from Autoimmune Hepatitis: A Case Report	Yonago Acta Med. 2022 Apr 13;65(2):160-165. eCollection 2022 May.	Original Article

21	Kawashima-Sonoyama Yuki, Hotsubo Tomoyuki, Hamajima Takashi, et al.	小児科	Various phenotypes of short stature with heterozygous IGF-1 receptor(IGF1R) mutations	Clin Pediatr Endocrinol . 2022;31(2):59-67(2022.04)	Original Article
22	Matsunaga T, Saito H, Osaki T, et al.	第一外科診療科群	Impact of geriatric nutritional risk index on outcomes after gastrectomy in elderly patients with gastric cancer: a retrospective multicenter study in Japan	BMC Cancer. 2022 May 12;22(1):540.	Others
23	Hanaki T, Sunaguchi T, Goto K, et al.	第一外科診療科群	Laparoscopic cholecystectomy after percutaneous transhepatic gallbladder drainage for acute cholecystitis in a patient with a left ventricle assist device: A case report and brief review of the literature (with video)	Clin Case Rep. 2022 May 22;10(5):e05800. eCollection 2022 May.	Case report
24	Goto H.	皮膚科	Current Treatment Options for Cutaneous Adnexal Malignancies	Curr Treat Options Oncol. 2022 May;23(5):736-748. Epub 2022 Mar 26.	Review
25	Uemasu H, Ikuta H, Igawa T, et al.	小児科	Cryo-injury procedure-induced cardiac regeneration shows unique gene expression profiles in the newt <i>Pleurodeles waltl</i>	Dev Dyn. 2022 May;251(5):864-876. Epub 2022 Jan 17.	Original Article
26	Yamasaki A, Okazaki R, Harada T.	第三内科診療科群	Neutrophils and Asthma	Diagnostics (Basel). 2022 May 8;12(5):1175.	Review
27	Isomoto H, Suzuki H.	第二内科診療科群	Experimental and translational research in gastrointestinal endoscopy, the Japan Gastroenterological Endoscopy Society and perspective	Dig Endosc. 2022 May;34 Suppl 2:129-131.. Epub 2021 Sep 24.	Others
28	Kawaguchi K, Isomoto H.	第二内科診療科群	How can guidelines contribute to reducing "preventable" mortality in patients with upper gastrointestinal bleeding on antithrombotic drugs?	Dig Endosc. 2022 May;34(4):738-740. Epub 2022 Mar 1.	Others
29	Kurumi H, Fuji M, Isomoto H.	第二内科診療科群	Impact of the coronavirus disease pandemic on peroral endoscopic myotomy and high-resolution manometry activity in Japan	Dig Endosc. 2022 May;34(4):778-781. Epub 2022 Jan 17.	Others
30	Wibisono H, Nakamura K, Taniguchi F, et al.	産婦人科	Tracing location by applying Emerald luciferase in an early phase of murine endometriotic lesion formation	Exp Anim. 2022 May 20;71(2):184-192. Epub 2021 Nov 25.	Original Article
31	Kurumi H, Sakaguchi T, Hashiguchi K, et al.	第二内科診療科群	Photodynamic Diagnosis for the Identification of Intestinal-Type Gastric Cancers and High-Grade Adenomas	Front Oncol. 2022 May 2;12:861868. eCollection 2022.	Original Article
32	Okazaki T, Kawaguchi T, Saiki Y, et al.	遺伝子診療科	Clinical course of a Japanese patient with developmental delay linked to a small 6q16.1 deletion	Hum Genome Var. 2022 May 17;9(1):14.	Case report
33	Yoshida A, Kuwamoto S, Kurumi H, et al.	第二内科診療科群	Polyomavirus-associated Primary Gastric Merkel Cell Carcinoma	Intern Med. 2022 May 1;61(9):1463-1465. . Epub 2021 Oct 12.	Others
34	Takamori T, Izawa S, Fukuhara T, et al.	検査部	Clinical Characteristics and Predictors Related to the Progression of Multinodular Goiter Causing Tracheal Compression and Deviation: A Report of Two Cases and Review of the Literature	Intern Med. 2022 May 1;61(9):1375-1381. Epub 2021 Oct 19.	Review
35	Yamashita T, Kurumi H, Fujii M, et al.	がんセンター	Objective Methods of 5-Aminolevulinic Acid-Based Endoscopic Photodynamic Diagnosis Using Artificial Intelligence for Identification of Gastric Tumors	J Clin Med. 2022 May 27;11(11):3030.	Original Article
36	Kamimura A, Enokida M, Enokida S, et al.	整形外科	A method combining the use of a mobile application and a dedicated pelvic positioner for acetabular cup insertion	J Orthop Surg Res. 2022 May 3;17(1):251.	Original Article
37	Inoue Y, Ohashi Y, Shimomura Y, et al.	眼科	Multicenter prospective observational study of fungal keratitis in Japan: analyses of culture-positive cases	Jpn J Ophthalmol. 2022 May;66(3):227-239. Epub 2022 Mar 29.	Others
38	Hikita K, Honda M, Shimizu R, et al.	腎センター	Longitudinal, 5-year long-term outcomes for urinary continence and quality of life after robot-assisted radical prostatectomy in Japanese patients	Low Urin Tract Symptoms. 2022 May;14(3):178-185. Epub 2021 Dec 2.	Original Article
39	Onoyama T, Koda H, Hamamoto W, et al.	第二内科診療科群	Review on acute pancreatitis attributed to COVID-19 infection	World J Gastroenterol. 2022 May 21;28(19):2034-2056.	Review
40	Hikita K, Honda M, Nishikawa R, et al.	腎センター	Experience of Cadaver Donor Nephrectomy with Cadaver Surgical Training	Yonago Acta Med. 2022 May 23;65(2):181-183. eCollection 2022 May.	Original Article
41	Morizane S, Honda M, Shimizu R, et al.	泌尿器科	Initial Experience of Robot-Assisted Adrenalectomy in Japan: What is the Optimal Selection of Robotic Forceps for Adrenalectomy?	Yonago Acta Med. 2022 May 23;65(2):176-180. eCollection 2022 May.	Original Article
42	Yamanashi T, Sullivan EJ, Comp KR, et al.	精神科	Anti-inflammatory medication use associated with reduced delirium risk and all-cause mortality: A retrospective cohort study	J Psychosom Res. 2023 May;168:111212.	Original Article
43	Tanishima S, Weishi L, Jianzhong H, et al.	整形外科	Evaluating the Reproducibility of the Walking Test for Intermittent Claudication Associated with Lumbar Spinal Stenosis	Asian Spine J. 2022 Jun;16(3):411-418. Epub 2021 May 10.	Case report

44	Miyatani K, Sawata S, Makinoya M, et al.	第一外科診療科群	Combined analysis of preoperative and postoperative lymphocyte-C-reactive protein ratio precisely predicts outcomes of patients with gastric cancer	BMC Cancer. 2022 Jun 11;22(1):641.	Original Article
45	Hanaki T, Miyatani K.	第一外科診療科群	Ectopic liver on the surface of the gallbladder	BMJ Case Rep. 2022 Jun 20;15(6):e251229.	Case report
46	Okanishi T, Fujii Y, Sakuma S, et al.	脳神経小児科	Lacosamide monotherapy for the treatment of childhood epilepsy with centrottemporal spikes	Brain Dev. 2022 Jun;44(6):380-385. Epub 2022 Feb 28.	Original Article
47	Hanaki T, Tokuyasu N, Sakamoto T, et al.	第一外科診療科群	Hepatectomy guided by indocyanine green fluorescent imaging for visualizing bile leakage (with video)	Clin Case Rep. 2022 Jun 3;10(6):e05942. eCollection 2022 Jun.	Case report
48	Okura T, Fujioka Y, Nakamura R, et al.	第一内科診療科群	Dipeptidyl peptidase 4 inhibitor improves insulin resistance in Japanese patients with type 2 diabetes: a single-arm study, a brief report	Diabetol Metab Syndr. 2022 Jun 7;14(1):78.	Original Article
49	Kinugasa Y, Fukuki M, Hirota Y, et al.	第一内科診療科群	Differences in needs for community collaboration for heart failure between medical and nursing care staff	Heart Vessels. 2022 Jun;37(6):969-975. Epub 2021 Nov 23.	Original Article
50	Yasui S, Yoshida A, Takata M, et al.	第二内科診療科群	Rheumatoid Arthritis Symptoms Diagnosed by Rheumatic Immune-related Adverse Events Caused by Nivolumab in a Patient with Esophageal Cancer: A Case Report	Intern Med. 2023 Jan 15;62(2):215-220	Case report
51	Kurumi H, Hashimoto T, Isomoto H.	第二内科診療科群	Light-emitting diode-based photodynamic endoscopic imaging for early gastric cancer	Dig Endosc. 2022 Jul;34(5):1073. Epub 2022 Jun 2.	Others
52	Inui G, Funaki Y, Makino H, et al.	第三内科診療科群	Pembrolizumab-induced aseptic meningitis in a patient with non-small cell lung cancer: A case report and literature review of aseptic meningitis as an immune-related adverse event	Mol Clin Oncol.2022 Jun 1;17(1):120.eCollection 2022 Jul.	Case report
53	Teraoka S, Honda M, Makishima K, et al.	泌尿器科	Early effects of adipose-derived stem cell sheets against detrusor underactivity in a rat cryo-injury model	Life Sci. 2022 Jul 15;301:120604. Epub 2022 May 6.	Original Article
54	Morizane S, Honda M, Kihara K, et al.	泌尿器科	Laparoscopic pelvic lymph node dissection in cadaver surgical training from the combined perspectives of urologists, gastroenterologists and gynecologists improves overall knowledge and technique: initial	Anat Sci Int.2022 Jul;97(3):303-306. Epub 2022 Mar 8.	Case report
55	Morizane S, Honda M, Yumioka T, et al.	泌尿器科	Technique of en bloc resection of the membranous urethra and bladder during robot-assisted radical cystectomy in patients without simultaneous urethrectomy	Asian J Endosc Surg.2022 Jul;15(3):683-687.	Others
56	Oishi T, Kigawa J, Iwanari O, et al.	産婦人科	Is cytology/HPV co-testing for cervical cancer screening useful in Japan?	Int J Gynaecol Obstet.2022 Jul;158(1):187-193	Others
57	Yamada K, Takata T, Iyama T, et al.	第二内科診療科群	Fluorescence Imaging Using Enzyme-Activatable Probes for Detecting Diabetic Kidney Disease and Glomerular Diseases	Int J Mol Sci.2022 Jul 24;23(15):8150	Original Article
58	Yashima K, Shabana M, Kurumi H, et al.	がんセンター	Gastric Cancer Screening in Japan: A Narrative Review	J Clin Med.2022 Jul 26;11(15):4337	Review
59	Kanaya H, Enokida M, Ishida K, et al.	整形外科	Factors associated with perioperative deep vein thrombosis in arthroscopic anterior cruciate ligament reconstruction	J Orthop Sci.2022 Jul 13;S0949-2658(22)00167-1. Online ahead of print	Original Article
60	Harada T, Taniguchi F, Harada T.	産婦人科	Increased risk of obstetric complications in patients with adenomyosis: A narrative literature review	Reprod Med Biol.2022 Jul 6;21(1):e12473	Review
61	Hanaki T, Tsuda A, Sunaguchi T, et al.	第一外科診療科群	Influence of the water jet system vs cavitron ultrasonic surgical aspirator for liver resection on the remnant liver	World J Clin Cases.2022 Jul 16;10(20):6855-6864	Others
62	Hara K, Yamamoto M, Sawata S, et al.	第一外科診療科群	Two Cases of Rectal Cancer with Retzius Shunt Treated with Robot-Assisted Surgery	Yonago Acta Med.2022 Jul 23;65(3):262-265.eCollection 2022 Aug.	Case report
63	Onoyama T, Ishikawa S, Isomoto H.	第二内科診療科群	Gastric cancer and genomics: review of literature	J Gastroenterol.2022 Aug;57(8):505-516	Review
64	Fukuoka K, Suyama Y, Morita M, et al.	形成外科	Preventing recurrence after surgical repair of pressure injuries in patients with spinal cord injury: Effects of a presurgical and postsurgical wheelchair seating intervention by experts	J Tissue Viability.2022 Aug;31(3):552-556	Original Article
65	Tanishima S, Weishi L, Jianzhong H, et al.	整形外科	Response to: Evaluating the Reproducibility of the Walking Test for Intermittent Claudication Associated with Lumbar Spinal Stenosis	Asian Spine J.2022 Aug;16(4):613-614	Others
66	Isomoto H, Sakaguchi T, Inamine T, et al.	第二内科診療科群	SNP rs2920280 in PSCA Is Associated with Susceptibility to Gastric Mucosal Atrophy and Is a Promising Biomarker in Japanese Individuals with Helicobacter pylori Infection	Diagnostics (Basel).2022 Aug 16;12(8):1988	Original Article

67	Kinugasa Y, Sota T, Kamitani H, et al.	第一内科診療科群	Diagnostic performance of nutritional indicators in patients with heart failure	ESC Heart Fail.2022 Aug;9(4):2096–2106	Original Article
68	Yumioka T, Morizane S, Makishima K, et al.	泌尿器科	Brain and spinal cord metastases with seminoma: A case report	IJU Case Rep.2022 Aug 30;5(6):464–468.eCollection 2022 Nov.	Case report
69	Takata T, Hamada S, Mae Y, et al.	第二内科診療科群	Uromodulin Regulates Murine Aquaporin-2 Activity via Thick Ascending Limb–Collecting Duct Cross-Talk during Water Deprivation	Int J Mol Sci.2022 Aug 20;23(16):9410	Original Article
70	Yoshikawa Y, Kishimoto Y, Onohara T, et al.	心臓血管外科	Safe launch of a robotically assisted mitral valve repair program in a single center: experience of initial 20 cases under the Center for Minimally Invasive Surgery	J Artif Organs. 2022 Aug 15	Original Article
71	Kishimoto Y, Yoshikawa Y, Morimoto K, et al.	心臓血管外科	Impact of frailty on early and mid-term outcomes of hybrid aortic arch repair	Surg Today.2022 Aug;52(8):1194–1201	Original Article
72	Honda M, Kimura Y, Teraoka S, et al.	泌尿器科	Efficacy of Combination Treatment with Tadalafil and Mirabegron in Patients with Benign Prostatic Hyperplasia Who Presented with Persistent Storage Symptoms After Tadalafil Monotreatment: A	Yonago Acta Med.2022 Aug 4;65(3):231–237. eCollection 2022 Aug.	Original Article
73	Ohba S, Koeda T, Oguri M, et al.	ワークライフバランス支援センター	Predicting Mathematical Learning Difficulties Using Fundamental Calculative Ability Test (FCAT)	Yonago Acta Med.2022 Aug 29;65(3):238–243.eCollection 2022 Aug.	Original Article
74	Suyama Y, Yagi S, Fukuoka K, et al.	形成外科	Risk Factors of Free Flap Complications in Reconstruction for Head and Neck Cancer	Yonago Acta Med.2022 Aug 3;65(3):215–225. eCollection 2022 Aug.	Original Article
75	Kato K, Hatayama Y, Shimohiro H, et al.	検査部	Differences in the Composition of Activated Partial Thromboplastin Time (APTT) Reagents Affect Clot Waveform Analysis	Yonago Acta Med.2022 Aug 29;65(3):226–230.eCollection 2022 Aug.	Original Article
76	Kakee S, Mino Y, Okuno K, et al.	小児科	Pediatric Respiratory Virus Infections During the COVID-19 Pandemic in a Region Without Active Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2 (SARS-CoV-2) Circulation	Yonago Acta Med.2022 Aug 29;65(3):244–253.eCollection 2022 Aug.	Original Article
77	Sakamoto T, Makinoya M, Sunaguchi T, et al.	第一外科診療科群	Geriatric nutritional risk index as a prognostic factor in patients with recurrent pancreatic cancer	PLoS One.2022 Jul 7;17(7):e0271073. eCollection 2022.	Others
78	Anno M, Izawa S, Fujioka Y, et al.	第一内科診療科群	Retroperitoneal paraganglioma with loss of heterozygosity of the von Hippel-Lindau gene: a case report and review of the literature	Endocr J. 2022 Sep 28;69(9):1137–1147	Review
79	Koyama S, Ehara H, Donishi R, et al.	頭頸部診療科群	Photoimmunotherapy with surgical navigation and computed tomography guidance for recurrent maxillary sinus carcinoma	Auris Nasus Larynx. 2022 Sep 16;S0385–8146(22)00204–8	Case report
80	Sakamoto T, Sunaguchi T, Goto K, et al.	第一外科診療科群	Modified geriatric nutritional risk index in patients with pancreatic cancer: a propensity score-matched analysis	BMC Cancer.2022 Sep 12;22(1):974	Original Article
81	Watanabe T, Akasaka T, Kobara S, et al.	第一内科診療科群	Successful visible thrombus aspiration in ST-segment elevation myocardial infarction: associated factors and the clinical impact	Coron Artery Dis.2022 Sep 1;33(6):479–484	Original Article
82	Matsumoto K, Kushiya Y, Izumi A, et al.	第二内科診療科群	Usefulness of Practitioner-Led Pancreatic Cancer Screening	Diagnostics (Basel).2022 Sep 19;12(9):2257	Original Article
83	Moriyasu S, Shimizu T, Honda M, et al.	脳神経内科	Motor cortical plasticity and its correlation with motor symptoms in Parkinson’s disease	eNeurologicalSci. 2022 Sep 1;29:100422. eCollection 2022 Dec.	Original Article
84	Takami A, Kinugasa Y, Yamamoto K.	第一内科診療科群	Reply to Letter Regarding Article, “Simple Score to Predict Treatment Response to Low-Dose Tolvaptan in Patients with Heart Failure”	Int Heart J.2022 Sep 30;63(5):1016	Others
85	Kawaguchi K, Yashima K, Ikebuchi Y, et al.	第二内科診療科群	The First Case of Gastric Neuroendocrine Tumors Induced by a Proton Pump Inhibitor in von Hippel-Lindau Disease	Intern Med.2022 Sep 1;61(17):2587–2592	Case report
86	Sakamoto Y, Takeda Y, Kawahara S, et al.	第二内科診療科群	Large Gallstones Stacked Together in the Common Bile Duct after Choledochojunostomy	Intern Med. 2022 Sep 1;61(17):2613–2617	Case report
87	Honda N, Watanabe Y, Tokuoka Y, et al.	脳神経内科	Roles of microglia/macrophage and antibody in cell sheet transplantation in the central nervous system	Stem Cell Res Ther.2022 Sep 11;13(1):470	Original Article
88	Miyazaki D, Fukushima A, Uchio E, et al.	眼科	Executive summary: Japanese guidelines for allergic conjunctival diseases 2021	Allergol Int.2022 Oct;71(4):459–471	Review
89	Maegaki M, Kawamura K, Hara K, et al.	血液内科	Successful HLA-haploidentical stem cell transplantation with post-transplant cyclophosphamide in an older patient with chronic active Epstein-Barr virus infection	Int J Hematol.2022 Oct;116(4):630–634.	Case report

90	Amisaki R, Kato M, Fujiyama M, et al.	第一内科診療科群	Difficulty initiating sleep in patients with heart failure: Impact of left atrial pressure	J Cardiol.2022 Oct;80(4):365–372	Original Article
91	Hanaki T, Goto K, Morimoto M, et al.	第一外科診療科群	Surgical Administration of Indocyanine Green in Hepatectomy for Improved Bile Leakage Detection	Anticancer Res.2022 Oct;42(10):4787–4793	Original Article
92	Matsuura K, Takanashi N.	眼科	The Stop and Press Technique; an Occlusion Free Stop-and-Chop Technique in Cataract Patients with Soft to Moderate Nuclei	Clin Ophthalmol. 2022 Oct 10;16:3283–3287. eCollection 2022.	Original Article
93	Matsuura K, Inoue Y.	眼科	Venom ophthalmia (keratoconjunctivitis) caused by nuchal gland secretion of Rhabdophis tigrinus: case report	J Ophthalmic Inflamm Infect.2022 Oct 7;12(1):32	Case report
94	Tanishima S, Kotani Y, Takeda C, et al.	整形外科	Relationship between Facial Color Changes and Psychological Problems Associated with Lower Back Pain	Medicina (Kaunas).2022 Oct 17;58(10):1471	Original Article
95	Suzuki Y, Adachi T, Sakuwa M, et al.	脳神経内科	An autopsy case of progressive supranuclear palsy. Pallido-nigro-luysian type with argyrophilic grains clinically presenting with personality and behavioral changes	Neuropathology.2022 Oct;42(5):447–452	Case report
96	Nerei R, Murakami T, Kawase S, et al.	脳神経内科	[Unilateral asterix after hemiballism in a patient with acute cerebral infarction]	Rinsho Shinkeigaku.2022 Oct 22;62(10):793–796	Case report
97	Kihara K, Koyama Y, Hanaki T, et al.	第一外科診療科群	Robot-assisted total pelvic exenteration for rectal cancer after neoadjuvant chemoradiotherapy: a case report	Surg Case Rep. 2022 Oct 7;8(1):191	Case report
98	Nagata H, Komatsu H, Nakaso T, et al.	産婦人科	Robot-Assisted Total Hysterectomy of Extremely Unusual Pelvic Anatomy: A Case Report and Literature Review	Yonago Acta Med.2022 Oct 25;65(4):315–319.eCollection 2022 Nov.	Original Article
99	Sakamoto Y, Takeda Y, Seki Y, et al.	第二内科診療科群	The Usefulness of Peroral Cholangioscopy for Intrahepatic Stones	J Clin Med.2022 Oct 29;11(21):6425	Original Article
100	Arai Y, Okanishi T, Oguri M, et al.	脳神経小児科	Power and connectivity changes on electroencephalogram in postoperative cerebellar mutism	Brain Dev.2022 Nov;44(10):759–764	Case report
101	Ikeda A, Hisaoka M, Goto H, et al.	皮膚科	First Case of Allochronic Onset of Two Primary Dermatofibrosarcoma Protuberans Lesions Proved by COL1A1-PDGFB Fusion Gene Analysis	Acta Derm Venereol.2022 Nov 29;102:adv00822	Case report
102	Yamanashi T, Anderson ZE, Modukuri M, et al.	精神科	The potential benefit of metformin to reduce delirium risk and mortality: a retrospective cohort study	Aging (Albany NY).2022 Nov 17;14(22):8927–8943	Original Article
103	Hikita K, Honda M, Shimizu R, et al.	腎センター	Influence of the time interval between biopsy and surgery on the biochemical recurrence after robot-assisted radical prostatectomy in Japanese patients	Asian J Surg.2022 Nov;45(11):2179–2184	Original Article
104	Ohta K, Okanishi T, Kanai S, et al.	脳神経小児科	Stimulus-induced focal motor seizure in a pediatric patient with carbamazepine overdose	Brain Dev.2022 Nov;44(10):765–768	Case report
105	Arai Y, Okanishi T, Kanai S, et al.	脳神経小児科	A case of ALG11-congenital disorders of glycosylation diagnosed by post-mortem whole exome sequencing	Brain Dev.2022 Nov;44(10):732–736	Case report
106	Honda M, Shimizu R, Teraoka S, et al.	泌尿器科	Incidence and predictive factors of orgasmic dysfunction after robot-assisted radical prostatectomy: A cross-sectional, questionnaire-based study	Int J Urol.2022 Nov;29(11):1304–1309	Original Article
107	Iwamoto H, Morizane S, Yamamoto A, et al.	泌尿器科	Utility of the HYBRID Method Incorporating the Advantages of Both Extracorporeal and Intracorporeal Urinary Diversion in Robotic-Assisted Radical Cystectomy	Yonago Acta Med.2022 Nov 28;65(4):288–295.eCollection 2022 Nov.	Original Article
108	Yagi S, Ikuta K, Miyazaki S, et al.	形成外科	Analysis of the Optimum Tapering Angle in Microanastomosis Using Computational Fluid Dynamics	Yonago Acta Med.2022 Nov 28;65(4):296–302.eCollection 2022 Nov.	Original Article
109	Uchinaka EI, Hanaki T, Morimoto M, et al.	第一外科診療科群	The Barthel Index for Predicting Postoperative Complications in Elderly Patients Undergoing Abdominal Surgery: A Prospective Single-center Study	In Vivo. 2022 Nov–Dec;36(6):2973–2980	Original Article
110	Sugezawa K, Morimoto M, Yamamoto M, et al.	第一外科診療科群	GPX4 Regulates Tumor Cell Proliferation via Suppressing Ferroptosis and Exhibits Prognostic Significance in Gastric Cancer	Anticancer Res.2022 Dec;42(12):5719–5729	Original Article
111	Wada T, Tanishima S, Kitsuda Y, et al.	リハビリテーション部	Walking speed is associated with postoperative pain catastrophizing in patients with lumbar spinal stenosis: a prospective observational study	BMC Musculoskelet Disord.2022 Dec 20;23(1):1108	Others
112	Kanai S, Oguri M, Okanishi T, et al.	脳神経小児科	Quantitative pretreatment EEG predicts efficacy of ACTH therapy in infantile epileptic spasms syndrome	Clin Neurophysiol.2022 Dec;144:83–90	Original Article

113	Harada T, Ota I, Kitawaki J, et al.	産婦人科	Real-world outcomes of the levonorgestrel-releasing intrauterine system for heavy menstrual bleeding or dysmenorrhea in Japanese patients: A prospective observational study (J-MIRAI)	Contraception. 2022 Dec;116:22–28.	Others
114	Miyauchi W, Shishido Y, Matsumi Y, et al.	第一外科診療科群	Simultaneous regulation of ferroptosis suppressor protein 1 and glutathione peroxidase 4 as a new therapeutic strategy of ferroptosis for esophageal squamous cell carcinoma	Esophagus. 2022 Dec 28. Online ahead of print.	Original Article
115	Yoshida Y, Ehara Y, Koga M, et al.	皮膚科	Health-related quality of life in patients with neurofibromatosis 1 in Japan: A questionnaire survey using EQ-5D-5L	J Dermatol. 2022 Dec;49(12):1228–1232	Original Article
116	Kawaguchi K, Yoshida A, Yuki T, et al.	第二内科診療科群	A multicenter prospective study of the treatment and outcome of patients with gastroduodenal peptic ulcer bleeding in Japan	Medicine (Baltimore).2022 Dec 9;101(49):e32281	Others
117	Edano M, Kanda T, Tarumoto R, et al.	第二内科診療科群	Intracellular glutathione levels affect the outcomes of verteporfin-mediated photodynamic therapy in esophageal cancer cells	Photodiagnosis Photodyn Ther.2022 Dec;40:103090	Original Article
118	Komatsu H, Nakagawa S, Yamagami W, et al.	産婦人科	Impact of the COVID-19 pandemic on surgery for benign diseases in gynecology: A nationwide survey by the Japan Society of Obstetrics and Gynecology	J Obstet Gynaecol Res. 2023 Jan;49(1):314–320. Epub 2022 Oct 26.	Original Article
119	Hayashibara M, Hagino H, Hayashi I, et al.	整形外科	A Case of Septic Arthritis of the Elbow Joint in Rheumatoid Arthritis Diagnosed by Arthroscopic Synovectomy	Mod Rheumatol Case Rep.2023 Jan 3;7(1):24–27.	Case report
120	Kurumi H, Takata T, Kanda T, et al.	第二内科診療科群	Investigating the role of heat shock protein 47 in fibrosis in Crohn's disease	Sci Rep. 2022 Jun 29;12(1):10966.	Original Article
121	Miyamoto Y, Okazaki T, Watanabe K, et al.	脳神経小児科	First detailed case report of a pediatric patient with neuronal intranuclear inclusion disease diagnosed by NOTCH2NLC genetic testing	Brain Dev. 2023 Jan;45(1):70–76	Case report
122	Baba T, Koyama A, Uotani R, et al.	眼科	Association of IL-4 with pachychoroid neovasculopathy	Sci Rep. 2023 Jan 20;13(1):1152.	Original Article
123	Nagahara T, Sugihara T, Kihara T, et al.	第二内科診療科群	The Characteristics and Prognosis of Alpha-Fetoprotein and Des-Gamma-Carboxy Prothrombin Double-Negative Hepatocellular Carcinoma at Baseline in Higher BCLC Stages	Cancers (Basel). 2023 Jan 6;15(2):390.	Original Article
124	Hikita K, Honda M, Shimizu R, et al.	腎センター	Advanced Reconstruction of Vesicourethral Support May Improve Urinary Continence and Quality of Life After Non-nerve-sparing Robot-assisted Radical Prostatectomy	In Vivo. 2023 Jan-Feb;37(1):371–377.	Original Article
125	Takata T, Isomoto H.	第二内科診療科群	The Versatile Role of Uromodulin in Renal Homeostasis and its Relevance in Chronic Kidney Disease	Intern Med. 2023 Jan 15. Online ahead of print.	Review
126	Yashima K, Onoyama T, Kurumi H, et al.	第二内科診療科群	Current status and future perspective of linked color imaging for gastric cancer screening: a literature review	J Gastroenterol. 2023 Jan;58(1):1–13. Epub 2022 Oct 26.	Review
127	Miyauchi W, Matsunaga T, Sakano Y, et al.	第一外科診療科群	Usefulness of the Modified Frailty Index for Predicting Pneumonia Occurrence After Esophagectomy	Yonago Acta Med. 2023 Jan 17;66(1):1–6. eCollection 2023 Feb.	Original Article
128	Suzuki S, Kuwamoto S, Kawamura K, et al.	血液内科	Development of a Prognostic Scoring System using MYC Expression and Soluble Interleukin Receptor α 2 level for Diffuse Large B-cell Lymphoma	Yonago Acta Med. 2023 Jan 25;66(1):56–66. eCollection 2023 Feb.	Original Article
129	Matsuura K, Inoue Y.	眼科	Intraoperative Iodine Disinfection for Cataract Surgery [Letter]	Infect Drug Resist. 2023 Jan 23;16:389–390. eCollection 2023.	Letter
130	Yamanashi T, Crutchley KJ, Wahba NE, et al.	精神科	The genome-wide DNA methylation profiles among neurosurgery patients with and without post-operative delirium	Psychiatry Clin Neurosci. 2023 Jan;77(1):48–55. . Epub 2022 Nov 17.	Original Article
131	Takeuchi M, Murakami T, Noguchi N, et al.	脳神経内科	[An autopsy case of polyarteritis nodosa accompanied with multiple immune-specific autoantibodies and rhabdomyolysis]	Rinsho Shinkeigaku. 2023 Jan 28;63(1):21–26.	Case report
132	Wakahara M, Hosoya K, Ishii H, et al.	胸部外科診療科群	Clinical Significance of Subcellular Localization of Maspin in Breast Carcinoma: An Immunohistochemical Study Using Two Different Antibodies	Yonago Acta Med. 2023 Jan 16;66(1):19–23. eCollection 2023 Feb.	Original Article
133	Hayashibara M, Hagino H, Hayashi I, et al.	整形外科	A case of septic arthritis of the elbow joint in rheumatoid arthritis diagnosed by arthroscopic synovectomy	Mod Rheumatol Case Rep. 2023 Jan 3;7(1):24–27.	Case report
134	Miyamoto Y, Okazaki T, Watanabe K, et al.	脳神経小児科	First detailed case report of a pediatric patient with neuronal intranuclear inclusion disease diagnosed by NOTCH2NLC genetic testing	Brain Dev. 2023 Jan;45(1):70–76.	Case report
135	Hirayama Y, Takata M, Yamasaki A, et al.	第三内科診療科群	Assessing Autonomic Nervous System Function by Pulse Rate Variability in Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease	Yonago Acta Med. 2023 Jan 16;66(1):180–188. eCollection 2023 Feb.	Original Article

136	Yasui S, Yoshida A, Takata M, et al.	第二内科診療科群	Rheumatoid Arthritis Symptoms Diagnosed by Rheumatic Immune-related Adverse Events Caused by Nivolumab in a Patient with Esophageal Cancer	Intern Med. 2023 Jan 15;62(2):215-220.	Case report
137	Nagami A, Ishii R, Kitagawa K, et al.	放射線部	[Derivation of Conversion Formula of Image Quality Figure (IQF(inv)) Values by Old and New Analysis Software for Mammographic Contrast-detail Phantom]	Nihon Hoshasen Gijutsu Gakkai Zasshi. 2023 Feb 20;79(2):121-127. Epub 2023 Jan 16.	Original Article
138	Ikuta K, Fukuoka K, Suyama Y, et al.	形成外科	Comparison of Antera 3D® and TcPO2 for Evaluation of Blood Flow in Skin	Yonago Acta Med. 2023 Feb 10;66(1):146-152. eCollection 2023 Feb.	Original Article
139	Ohta K, Okanishi T, Sasaki M, et al.	脳神経小児科	Tendency and risk factors of acute pancreatitis in children with severe motor and intellectual disabilities: A single-center study	Brain Dev. 2023 Feb;45(2):126-133. Epub 2022 Nov 7.	Original Article
140	Hara K, Horikoshi Y, Morimoto M, et al.	第一外科診療科群	TYRO3 promotes chemoresistance via increased LC3 expression in pancreatic cancer	Transl Oncol. 2023 Feb;28:101608. Epub 2022 Dec 26.	Original Article
141	Morita M, Suyama Y, Notsu T, et al.	形成外科	Effects of Conditioned Medium of Adipose-Derived Stem Cells Exposed to Platelet-Rich Plasma on the Expression of Endothelial Nitric Oxide Synthase and Angiogenesis by Endothelial Cells	Ann Plast Surg. 2023 Feb 1;90(2):171-179.	Original Article
142	Arai Y, Okanishi T, Kumasaki K, et al.	脳神経小児科	A pediatric case of autoimmune encephalitis with chronologically moving seizure foci and cortical lesions: A case report	Brain Dev. 2023 Feb;45(2):146-151.	Case report
143	Oshima Y, Haruki T, Matsui S, et al.	胸部外科診療科群	Clinical significance of MYC family protein expression in surgically resected high-grade neuroendocrine carcinoma of the lung	Thorac Cancer. 2023 Mar;14(8):758-765.Epub 2023 Jan 24.	Original Article
144	Yoshida A, Kuwamoto S, Kurumi H, et al.	第二内科診療科群	An Unusual Case of Esophageal Phlebolith	Intern Med. 2023 Mar 1;62(5):803-804. Epub 2022 Jul 22.	Case report
145	Hosoya K, Wakahara M, Ikeda K, et al.	胸部外科診療科群	Perineural Invasion Predicts Unfavorable Prognosis in Patients With Invasive Breast Cancer	Cancer Diagn Progn. 2023 Mar 3;3(2):208-214.eCollection 2023 Mar-Apr.	Original Article
146	Kamitani Y, Kurumi H, Kanda T, et al.	第二内科診療科群	Comparative study between histochemical mucus volume, histopathological findings, and endocytoscopic scores in patients with ulcerative colitis	Medicine (Baltimore). 2023 Mar 3;102(9):e33033.	Others
147	Yoshida A, Kuwamoto S, Kurumi H, et al.	第二内科診療科群	An Unusual Case of Esophageal Phlebolith	Intern Med.2023 Mar 1;62(5):803-804	Case report
148	Nishikawa R, Miyake M, Morizane S, et al.	泌尿器科	C-reactive protein as a prognostic predictor for non-muscle invasive bladder cancer after intravesical bacillus Calmette-Guérin therapy: A Japan Urological Oncology Group study analysis	Int J Urol. 2023 Mar;30(3):299-307	Others
149	Amisaki R, Kato M, Yamamoto K.	第一内科診療科群	Author's reply	J Cardiol. 2023 Mar;81(3):330. . Epub 2022 Oct 17.	Others
150	Hanaki T, Goto K, Tokuyasu N, et al.	第一外科診療科群	Efficacy of indocyanine green systemic administration for bile leak detection after hepatectomy: a protocol for a prospective single-arm clinical trial with a historical control group	BMJ Open. 2023 Mar 21;13(3):e068223.	Others
151	Koda H, Matsumoto K, Kawata S, et al.	先進内視鏡センター	Comparison between Target Sample Check Illuminator and White Light Observation in Discriminating the Presence of Target Specimen for Endoscopic Ultrasound-Guided Fine Needle Aspiration Sample	J Clin Med. 2023 Mar 9;12(6):2139.	Original Article
152	Nishikawa R, Miyake M, Morizane S, et al.	泌尿器科	C-reactive protein as a prognostic predictor for non-muscle invasive bladder cancer after intravesical bacillus Calmette-Guérin therapy: A Japan Urological Oncology Group study analysis	Int J Urol. 2023 Mar;30(3):299-307.	Original Article

計152件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	和田 崇, 橋田 勇紀, 尾崎 まり, 他	リハビリテーション部	乳がん患者における術前の2ステップ値と術後の在院日数との関連	理学療法科学(1341-1667)37巻2号 Page229-235(2022.04)	Original Article
2	西川 結梨, 守安 絵美佳, 森實 修一, 他	泌尿器科	複数科による集学的治療で完治した縦隔原発胚細胞腫瘍の2例	西日本泌尿器科(0029-0726)84巻4号 Page389-393(2022.04)	Original Article
3	中河 直輝, 榎田 誠, 林 育太, 他	整形外科	第5中足骨近位骨端部障害の治療経験	中国・四国整形外科学会雑誌(0915-2695)34巻1号 Page93-96(2022.04)	Original Article
4	岩本 秀人, 森實 修一, 引田 克弥, 他	泌尿器科	鳥取大学におけるロボット支援副腎摘出術の初期経験	Japanese Journal of Endourology and Robotics(2436-875X)35巻1号 Page160-164(2022.04)	Original Article
5	橋田 勇紀, 和田 崇, 尾崎 まり, 他	リハビリテーション部	鳥取県米子市におけるフレイル対策事業の短期効果 介入プログラム開発のための予備的調査	米子医学雑誌(0044-0558)73巻1-3号 Page1-10(2022.05)	Original Article
6	八島 一夫, 橋本 健志, 吉田 由紀奈, 他	第二内科診療科群	【原発性小腸癌-見えてきたその全貌】消化管出血を契機に発見された異所性脾から発生したMeckel憩室瘻の1例	胃と腸(0536-2180)57巻6号 Page837-843(2022.05)	Original Article
7	Narai Takashi, Tamura Takayuki, Fujii Nobuyuki, et al.	歯科口腔外科	感染性心内膜炎の予防を目的に実施した薬剤関連顎骨壊死の拡大手術(Extensive surgery in medication-related osteonecrosis of the jaw for the prevention of infective endocarditis)(英語)	Oral Science International(1348-8643)19巻2号 Page101-105(2022.05)	Original Article
8	前垣 義弘, 中村 裕子, 大羽 沢子, 他	脳神経小児科	鳥取県における不登校児童・生徒の背景疾患・発達特性・家庭及び学校環境要因に関する基礎研究	疾病構造の地域特性対策専門委員会報告36巻 Page1-7(2022.05)	Original Article
9	中村 廣繁, 細谷 恵子, 門永 太一, 他	胸部外科診療科群	鳥取県における高齢者乳癌の臨床病理学的特徴と予後	疾病構造の地域特性対策専門委員会報告36巻 Page28-33(2022.05)	Original Article
10	守安 絵美佳, 寺岡 祥吾, 木村 有佑, 他	泌尿器科	乳頭状腎癌type 2を認めたBirt-Hogg-Dube syndromeの1例	西日本泌尿器科(0029-0726)84巻5号 Page593-596(2022.06)	Original Article
11	原田 智也, 岡崎 亮太, 高田 美樹, 他	第三内科診療科群	気管支喘息に用いられる生物学的製剤 関節リウマチの生物学的製剤と比較して	鳥取医学雑誌(0388-3795)50巻1-2号 Page4-9(2022.06)	Review
12	加藤 雅彦	第一内科診療科群	睡眠時無呼吸症候群と循環器疾患	鳥取医学雑誌(0388-3795)50巻1-2号 Page10-14(2022.06)	Review
13	古瀬 弘訓, 山崎 泰史, 松本 佑佳, 他	脳神経小児科	遺棄症を伴う慢性機能的便秘に対する発達障害特性に配慮した認知行動的アプローチの有効性 一小児例における検討	鳥取医学雑誌(0388-3795)50巻1-2号 Page38-43(2022.06)	Original Article
14	美野 陽一, 坂田 晋史, 清水 敬太, 他	小児科	再燃を繰り返すPlastic Bronchitisに対してステロイド療法により長期寛解維持できたFontan手術後の1例	鳥取医学雑誌(0388-3795)50巻1-2号 Page49-53(2022.06)	Original Article
15	森木 邦明, 永瀬 伶司, 千葉 貴志, 他	薬剤部	薬剤部門に所属している薬剤師以外の者の業務実態に関するアンケート調査結果	日本病院薬剤師会雑誌(1341-8815)58巻7号 Page739-745(2022.07)	Original Article
16	原田 勇聖, 竹内 優子, 吉田 優, 他	歯科口腔外科	先天性第XI因子欠乏症患者における抜歯時の止血管理の経験	日本口腔外科学会雑誌(0021-5163)68巻7号 Page300-304(2022.07)	Original Article
17	赤堀 圭一, 山家 健作, 遠藤 宏治, 他	整形外科	診断に難渋した足部発生類骨骨腫の3例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443)65巻4号 Page521-522(2022.07)	Original Article
18	安達 真紀子, 高根 浩, 井上 和子, 他	薬剤部	入院中の妊婦を対象とした健康食品利用実態と薬学的管理介入内容の分析	医薬品情報学(1345-1464)24巻2号 Page130-137(2022.08)	Original Article
19	細谷 朋央, 神部 敦司, 紙谷 秀規, 他	脳神経外科	頭蓋内硬膜に発生したpPNET/ESFTの1例	小児の脳神経(0387-8023)47巻3号 Page303-308(2022.08)	Original Article
20	田中 寛子	看護部	眼科局所麻酔下手術における術中血圧および脈拍数の変動	日本手術看護学会誌(1880-4780)18巻1号 Page188-194(2022.09)	Original Article
21	大東 美佐子, 花木 啓一	看護部	COVID-19患者に対応する大学病院に勤務する看護師が受けるストレスとその関連要因	米子医学雑誌(0044-0558)73巻4-5号 Page73-82(2022.09)	Original Article
22	木原 琢也, 杉原 誉明, 池田 傑, 他	第二内科診療科群	原因不明の門脈圧亢進症の経過中にde novo急性骨髄性白血病を発症した1例	肝臓(0451-4203)63巻9号 Page409-416(2022.09)	Original Article
23	福原 隆宏	頭頸部診療科群	頭頸部超音波を極める 頭部の解剖・異常所見の捉え方と臨床応用 頭部リンパ節の超音波診断 基礎から応用まで	超音波医学(1346-1176)49巻5号 Page371-379(2022.09)	Review
24	鎌田 裕司, 矢田 晋作, 遠藤 雅之, 他	放射線科	肺動脈瘤奇形を疑われ,肺動脈造影にて診断したmeandering pulmonary veinの1例	臨床放射線(0009-9252)67巻9号 Page1003-1006(2022.09)	Original Article
25	中村 太紀, 林 育太, 柳樂 慶太, 他	整形外科	肩腱板修復術後のShoulder36 V.1.3(患者立脚肩関節評価法)疼痛スコアに關与する因子	中国・四国整形外科学会雑誌(0915-2695)34巻2号 Page209-212(2022.09)	Original Article
26	山元 修	皮膚科	【扁平苔癬と類縁疾患】境界部(接合部)皮膚炎(interface dermatitis)を呈する疾患の病理組織	皮膚病診療(0387-7531)44巻10号 Page868-873(2022.10)	Review
27	根鈴 怜治, 村上 文伸, 河瀬 真也, 他	脳神経内科	片側バリスム後に片側アステリキシスを呈した急性期脳梗塞の1例	臨床神経学(0009-918X)62巻10号 Page793-796(2022.10)	Original Article
28	萩野 浩	リハビリテーション部	骨粗鬆症治療薬Update メディカルスタッフが知っておきたい基礎知識	日本骨粗鬆症学会雑誌(2189-8383)8巻4号 Page503-507(2022.11)	Original Article
29	坂本 誠, 宇野 哲史, 中島 定男, 他	脳神経外科	複雑な病変に対する急性期機械的血栓回収療法	脳卒中の外科(0914-5508)50巻6号 Page482-491(2022.11)	Original Article
30	領家 和男, 山本 吉蔵, 吉野 三也, 他	歯科口腔外科	BRONJ症例における皮質骨の微細構造と石灰化について CMRによる形態学および石灰化度解析(英語)	日本骨形態計測学会雑誌(0917-4648)32巻2号 Page1-8(2022.11)	Original Article
31	中河 直輝, 林 育太, 榎田 誠, 他	整形外科	野球選手に発生した肘関節滑膜軟骨骨腫症の1例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443)65巻6号 Page805-806(2022.11)	Original Article
32	木原 琢也, 杉原 誉明, 池田 傑, 他	第二内科診療科群	発熱と肝障害が契機となり診断したsmall duct primary sclerosing cholangitis(PSC)の1例	日本消化器病学会雑誌(0446-6586)119巻12号 Page1088-1095(2022.12)	Original Article
33	美野 陽一, 上綱 仁志, 坂田 晋史, 他	小児科	肺高血圧によりreversed differential cyanosisをきたした混合型総肺静脈還流異常症の1例	小児科(0037-4121)63巻12号 Page1407-1411(2022.12)	Original Article
34	花木 啓一, 金山 俊介, 長谷川 慶幸, 他	小児科	低身長小児の体格イメージの特徴について 食物摂取量からみた肥満傾向・痩せ傾向の関与	成長科学協会研究年報(0386-7617)45号 Page45-50(2022.12)	Original Article
35	高田 知朗, 前 ゆかり, 花田 日向子, 他	第二内科診療科群	ステロイドパルス療法中に発熱と急性腎障害をきたしたIgA腎症の1例	臨床透析(0910-5808)39巻1号 Page106-111(2023.01)	Case report

計35件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 1. 目的と適応範囲 1. 1. 目的 1. 2. 適応範囲 2. 委員会の構成 2. 1. 委員 2. 2. 委員会事務局 2. 3. 教育・研修 2. 4. 守秘義務 2. 5. 利益相反の管理 3. 審査・報告事項 4. コンサルテーション 5. 審査・報告申請 5. 1. 審査・報告資料の提出 5. 2. 提出資料 6. 倫理審査 6. 1. 一般審査 6. 2. 迅速審査 7. 審査結果の通知 8. 審査結果通知後の対応 9. 調査 10. 他の研究機関からの審査依頼 11. 情報公開 12. 記録の保管	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年46回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
- 2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 (目的) 鳥取大学医学部附属病院における臨床研究の実施者及びその関係者の利益相反(以下「利益相反」という。)が深刻な事態へと発展することを未然に防止するため、臨床研究に係る利益相反の適切な管理(以下「利益相反マネジメント」という。)に関し必要な事項を定め、もって臨床研究の適正な推進を図ることを目的とする。 (利益相反マネジメントの対象及び基準) 利益相反マネジメントの対象者は、次に掲げる者 一 臨床研究実施者等 二 臨床研究実施者等の配偶者及び臨床研究実施者等と生計を一にする当該臨床研究実施者等の親族 三 その他審査委員会が必要と判断した者 開示対象とする事項 一 経済的利益 二 経営関与 利益相反マネジメントは、臨床研究を実施するに当たり、被験者及び社会に対し、教育者・研究者又は医療関係者としての公正性に客観的な疑念を生じさせるか否かを判断基準として行うものとする。 (臨床研究実施者等の責務) 利益相反の発生が懸念される場合は、この規程に定めるところにより所定の手続きを経るほか、透明性、公正性の確保に自ら努める。	

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年6回
---------------------------------------	-----

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年6回
・研修の主な内容 - 個人情報保護法改正に伴う生命・医学系研究指針改訂のポイント - データマネジメント概論 - 臨床研究の科学性と研究計画 - 臨床研究を倫理的に行うために - 臨床研究・疫学研究の研究デザインと種々のバイアス：薬剤疫学を事例に - 事例から学ぶ臨床研究	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科の研修統括者のもと指導医による専門研修の指導を行っており、新専門研修制度においては、本院を基幹施設として県内外の関連病院を連携施設とした専門研修プログラムを策定し、各領域において高度な医療に関する研修の指導体制を構築している。また、各領域の研修プログラムにおいては、専門医資格の取得をはじめ、大学院重点コースや地域医療に配慮したコースを設定し、高度な医療に関する専門知識・技術、資質を習得し、社会に貢献できる医師の育成を行っている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	82 人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山本 一博	循環器内科／ 内分泌代謝内科	主任診療科長	37年	内科含む
磯本 一	消化器内科／ 腎臓内科	主任診療科長	33年	内科含む
山崎 章	呼吸器内科／ 膠原病内科／ アレルギー科	主任診療科長	30年	内科含む
岩田 正明	精神科	診療科長	23年	
難波 範行	小児科	診療科長	32年	
藤原 義之	消化器外科／ 小児外科	主任診療科長	36年	
吉川 泰司	心臓血管外科	診療科長	27年	
中村 廣繁	呼吸器外科／ 乳腺内分泌外科	主任診療科長	39年	
永島 英樹	整形外科／ リウマチ科	診療科長	35年	
吉田 雄一	皮膚科	診療科長	29年	
武中 篤	泌尿器科	教授	37年	
宮崎 大	眼科	診療科長	34年	
藤原 和典	耳鼻咽喉科／ 頭頸部外科	主任診療科長	22年	
藤井 進也	放射線科	診療科長	25年	
吉田 賢史	放射線治療科	診療科長	25年	
谷口 文紀	産婦人科	診療科長	30年	
大槻 明広	麻酔科	診療科長	24年	
小谷 勇	歯科口腔外科	診療科長	29年	
今村 武史	薬物療法内科	診療科長	36年	
八木 俊路朗	形成外科	診療科長	22年	
上田 敬博	救急科	診療科長	25年	

河村浩三	血液内科	診療科長	16年	内科含む
花島律子	脳神経内科	診療科長	33年	内科含む
黒崎雅道	脳神経外科	診療科長	33年	
前垣義弘	脳神経小児科	診療科長	35年	
栗野宏之	遺伝子診療科	診療科長	20年	
梅北善久	病理診断科	診療科長	36年	
千酌浩樹	感染症内科	診療科長	35年	内科含む

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
1. BLS研修	
・研修の主な内容	一次救命処置の知識の習得
・研修の期間・実施回数	令和4年10月～令和5年2月・11回
・研修の参加人数	205人
2. 緩和ケア研修会	
・研修の主な内容	がん診療に携わる全ての医療従事者の緩和ケアの基本的知識の習得
・研修の期間・実施回数	令和5年2月11日・1回
・研修の参加人数	20人
3. がんセミナー	
・研修の主な内容	がん診療について、幅広い知識の習得
・研修の期間・実施回数	令和4年6月、10月、12月・4回
・研修の参加人数	149人
4. 接遇研修	
・研修の主な内容	元ホテルマンから接遇の基本を学び、鳥大病院の職員としての接遇を考える機会とする
・研修の期間・実施回数	令和4年6月10日・1回
・研修の参加人数	54人
5. ポジティブマネジメント（強みを引き出し、その人らしさを支える）	
・研修の主な内容	組織の一体化に向け、ポジティブマネジメントについて理解を深める
・研修の期間・実施回数	令和5年2月20日・1回
・研修の参加人数	30人
6. コミュニケーション研修	
・研修の主な内容	コミュニケーション方法を理解する
・研修の期間・実施回数	令和4年8月24日・1回
・研修の参加人数	25人
7. 倫理研修（基礎）	
・研修の主な内容	臨床における倫理的課題から看護師としての基本的な考え方を確認する
・研修の期間・実施回数	令和4年4月4日・1回
・研修の参加人数	38人
8. 災害看護研修	
・研修の主な内容	災害時における看護を理解する
・研修の期間・実施回数	令和4年10月31日・1回
・研修の参加人数	32人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

1. ハラスメント防止研修会

- ・研修の主な内容 職場内で生じ得るハラスメントの内容について理解を深めるとともに、ハラスメントと捉えられる言動等について学び、ハラスメントに対するリスクの意識を高める
- ・研修の期間・実施回数 令和5年1月～2月・e-learningにより実施
- ・研修の参加人数 848人

2. ハラスメント相談員研修会

- ・研修の主な内容 ハラスメント相談員が、相談員の任務、役割の重要性を理解するとともに、ハラスメント相談を受ける際に必要な知識、スキル等を習得し、相談への対応能力を向上させる
- ・研修の期間・実施回数 令和5年1月～2月・e-learningにより実施
- ・研修の参加人数 30人

3. メンタルヘルス研修（セルフケア）

- ・研修の主な内容 ストレスに関する基礎知識を学ぶとともに、ストレス対処法を知ることにより、日々のセルフケアの習慣を身につけさせる機会を設け、心の健康促進を図る
- ・研修の期間・実施回数 令和4年12月～令和5年2月・e-learningにより実施
- ・研修の参加人数 602人

4. 労務管理研修会

- ・研修の主な内容 管理的立場にある者及び勤務時間管理員に対し、最近の労務管理をめぐる動向に関する説明を行うとともに、長時間労働による健康障害の防止（安全配慮義務）、勤務時間管理、ワークライフバランス等について意識啓発を行う
- ・研修の期間・実施回数 令和5年1月～2月・e-learningにより実施
- ・研修の参加人数 108人

5. 改正個人情報保護研修会

- ・研修の主な内容
 - ・2022年4月からの施行内容の概要
 - ・仮名加工情報への対応
 - ・行政機関、独立行政法人、地方公共団体における個人情報に関する規律の一元化
 - ・学術研究利用における適応除外に関する改正
 - ・民間事業者が学術研究機関に個人データを提供する際の制限
 - ・自主的な規律の策定の必要性
 - ・国立大学附属病院で求められる対応について
- ・研修の期間・実施回数 令和4年4月15日（オンライン開催）
- ・研修の参加者 1887人

6. 個人情報保護研修会（一般向け）

- ・研修の主な内容
 - ・個人情報保護法の改正について
 - ・個人情報の取扱いについて
- ・漏えいを防ぐための留意点
- ・研修の期間・実施回数 令和4年7月21日（オンライン開催）
令和4年7月22日～9月20日（火）（オンデマンド開催）
- ・研修の参加者 1904人

7. 個人情報保護研修会（保護管理者・保護担当者向け） - 研修の主な内容 - 個人情報保護と管理者の役割 - 鳥取大学における個人情報の管理について - 研修の期間・実施回数 令和4年12月5日～令和5年3月3日（金）（オンデマンド開催） - 研修の参加者 71人
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

（注）1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
管理責任者氏名	病院長 武中 篤		
管理担当者氏名	総務課 田代佳正 経営企画課 新野さくら 医事課 市川貢資 医療支援課 末廣徹		

		保 管 場 所		管 理 方 法
診療に関する諸記録	項 規則第二十二條の三第二項に掲げる事	病院日誌	総務課	病院日誌は、紙ベースにて日付順に保管。 外来カルテ、入院カルテは電子カルテにて中央管理。 紙媒体によるものはスキャンにて電子保存。 電子化されているものは電子カルテ管理。 エックス線写真は電子カルテにて中央管理（一部フィルムにて各診療科保管）。 なお、診療録を病院外に持ち出すことは禁止している。
		各科診療日誌	各診療科が係る病棟	
		処方せん	医療情報部	
		手術記録	医療情報部	
		看護記録	医療情報部	
		検査所見記録	医療情報部	
		エックス線写真	医療情報部	
		紹介状	医療情報部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	項 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	電子カルテにて中央管理
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営企画課 医学図書館	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	に 規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部 薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 MEセンター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部 MEセンター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 MEセンター	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部 医療支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部 MEセンター
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 武中 篤
閲覧担当者氏名	総務課長 田代佳正、経営企画課長 新野さくら 医事課長 市川貢資、医療支援課長 末廣 徹
閲覧の求めに応じる場所	医療相談室
閲覧の手続の概要	
①公開は、請求者が「開示請求書」を情報公開窓口の総務企画部総務課広報企画係に提出する。 ②大学は開示・不開示の決定を行い、「決定通知書」により請求者へ通知する。 ③請求者は、開示の実施方法・希望日を「開示の実施方法の申出書」により窓口へ申し出、開示実施手数料を支払う。 ④開示(閲覧)を実施する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延 0 件
閲 覧 者 別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☒ 有 ・ 無
・ 指針の主な内容： (1) 安全管理に関する基本的考え方 (2) 安全管理のための組織に関する基本的事項 (3) 医療安全管理のための医療従事者に対する研修に関する基本方針 (4) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (5) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院における医療従事者と患者及び家族等との間の情報の共有に関する基本方針 (7) 患者及び家族等からの相談への対応に関する基本方針 (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： 医療に係る安全管理体制の確保及び推進を図り、医療事故等及び医療行為に基づく医事紛争に対する防止策等について審議する。 (審議事項) ・ 医療に係る安全管理のための指針の策定・整備に関すること ・ 医療に係る安全管理のための教育・研修の企画・立案に関すること ・ 医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関すること ・ 医療事故等及び医事紛争を防止するために必要な啓発及び対策に関すること ・ 医療事故等発生時の対応、事実確認並びに医療安全の確保及び医療事故等の再発防止に関し 病院長から命を受けたこと ・ その他医療に係る安全管理体制の確保及び推進に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 89 回
・ 研修の内容 (すべて)： ・ 医療安全研修会 (12回) ・ 委託業務従事者研修会 (1回) ・ 医療機器研修会 (6回) ・ BLS研修会 (11回) ・ 薬剤関連研修会 (3回)	

- ・ 病院情報システム研修会（23回）
- ・ 新採用者・中途採用者オリエンテーション（25回）
- ・ 院内認定看護師育成研修（6回）
- ・ 患者誤認、誤薬、転倒転落に関する研修（1回）
- ・ 内服、注射に関する確認行動（1回）

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ ☒ 有 ・ 無 ）
 - ・ その他の改善のための方策の主な内容：
（報告の分析）
1. 医療安全管理責任者の指示のもと、医療安全管理者が、インシデント報告書を基に①内容 ②原因と要因 ③改善策 ④患者影響レベル ⑤患者及び家族への対応と反応等について現場で確認を行っている。
 2. 1を基に問題点を抽出し、現場や院内全体での改善策を講じている。
（検討方法）
1. 医療安全管理責任者を中心に、医療安全管理者、リスクマネジメント専門委員会委員が、インシデント報告についてカンファレンスを実施し、再発防止対策を検討する。
 2. 医療安全管理者は毎月の事例を分析し報告書を作成、リスクマネジメント専門委員会・医療事故防止等対策委員会・病院運営会議・統括医長連絡会リスクマネジメント担当者連絡会・看護師長会議等で報告し検討している。
 3. 事例によっては、クオリティ審査専門委員会・拡大クオリティ審査専門委員会等で審査を行う。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☒ 有・無
・ 指針の主な内容： 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 感染管理組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 院内感染対策推進のために必要な基本方針 8. 職業感染防止のための基本方針 9. 抗菌薬適正使用に関する基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： 1. 感染予防の対策に関すること 2. 感染予防対策実施の監視及び指導に関すること 3. 感染予防に係る情報の収集に関すること 4. 感染の発生原因及び感染経路の調査に関すること 5. その他感染予防に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の内容（すべて）： 1. 新型コロナウイルス感染対策2022年度-第1弾- 2. 新型コロナウイルス感染対策2022年度-第2弾-	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☒ 有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 感染症診療カンファレンスによる抗菌薬耐性菌検出患者・血液培養陽性患者・MRSA感染症治療薬および広域抗菌薬投与患者などの診断・治療・感染対策の検討 ・ 病棟ラウンドによる感染対策実施状況確認と現場指導 ・ サーベイランスによる感染症情報の把握とアウトブレイクへの対応 ・ 感染制御部メンバーによる定期ミーティング	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 28 回
・ 研修の主な内容： ・ 医療安全研修会「医療用麻薬のこと誤解していませんか」（1回） ・ インスリン療法・血糖測定研修会（1回） ・ 血糖測定リスクマネジメント研修会（1回） ・ インスリンリスクマネジメント研修会（1回） ・ 新採用・中途採用職員オリエンテーション（24回）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ・ 医薬品の採用・購入に関する事項 ・ 医薬品の管理に関する事項（麻薬等の管理方法等） ・ 患者の持参薬歴情報等の収集方法，処方せんの記載方法，調剤方法，処方箋や調剤薬の監査方法 ・ 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 ・ 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱いに関する事項 ・ 他施設（病院等、薬局等）との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： （情報収集の方法 ※未承認等の医薬品の情報その他の情報の収集） ・ 医療安全管理部および医薬安全に係る委員会と連携し、院内で発生するインシデント等の情報収集 ・ 病院で発生する副作用・感染症情報の把握 ・ 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業からの情報提供（口頭、インターネット、書面等） （情報の周知方法） ・ 緊急性、重要性、対象により、以下の方法等による周知を図る ・ 新採用者または全職員を対象に開催する研修会 ・ 書面や医療情報システム掲示板・院内メールを利用した情報提供	

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 医師等の個人に直接情報提供・ 病棟担当薬剤師による医師薬剤師への説明会 |
|--|

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
・ 研修の主な内容： ・ 人工呼吸器研修会（1回） ・ 人工呼吸非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）（1回） ・ 中心静脈挿入研修会（2回） ・ PICC（末梢穿刺中心静脈カテーテル）研修会（2回）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 （ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ・ MEセンターで直接管理している医療機器については、点検の対象機器及び方法を定めセンターでの定期点検、現場定期点検、使用前点検、使用中点検、使用后点検に区別して点検記録簿を作成し管理保管している。 ・ 現場管理が主体となる放射線装置については、部署の担当責任者が管理し、MEセンターはそれらの医療機器の定期点検表、修理点検表等の写しを提出してもらい、一括管理保管する。 ・ 保守・修理・点検にあたっては、計画の作成に参画し、業者との窓口としての業務を行っている。 院内で定期点検する場合は、メーカーの技術講習会を受けたMEが実施、点検項目や頻度はメーカー推奨を参考に作成している。 ・ 精度、機能、安全機構、ソフトのバージョン等メーカー技術講習に準じて実施。 オーバーホールも含む。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： （情報収集の方法） ・ 医療機器の添付文書、取扱説明書の安全使用・保守点検に関する文書整理し管理する。また、院内で発生する医療機器に関する不都合情報はMEセンターに報告してもらい、製造販売会社から適切な対処方法に関して情報提供を求めている。 （情報の周知方法）	

- ・医療安全管理部、リスクマネジメント専門委員会と協議協力して、院内に周知する。
- ・医療機器の不都合情報・安全情報等は、当該医療機器に直接携わる関係者には口頭、文書で通知し、院内には「MEセンター瓦版」、「リスクマネジメント便り」、あるいは医療情報システムを利用して情報提供を行う。さらに、研修会実施時に情報提供を行い、周知を図っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
・ 責任者の資格 (☒ 医師 ・ 歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 副病院長（医療安全）を配置している。 （職務内容） 医療安全管理部、医療事故防止等対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者、インフォームド・コンセント説明等責任者の統括をしている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☒ 有 （ 1名 ） ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医療安全管理部や医療安全に係る委員会等と連携の下、次の業務を行う。 1. 医薬品の安全のための業務に関する手順書の作成並びに改定 2. 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施 3. 医薬品の業務手順書に基づく業務の実施 4. 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認医薬品の使用状況は医薬品情報管理室にて一元管理を行い、定期的に（月一回程度）その結果を報告させ、必要な介入の指示を行い、実施させる。 ・ 担当者の指名の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 担当者の所属・職種： （所属：薬剤部 ， 職種薬剤師 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ ・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（☒・無） ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： ・説明等の実施に必要な方法に関して、インフォームド・コンセントマニュアル等に定められた事項の遵守状況を定期的に確認している。 ・説明方法、内容、文書管理等についての検討事項は、適宜インフォームド・コンセント専門委員会でルール化している。 ・不適切な事例が認められる場合は、当該部署へ指導を行うとともに、必要に応じて院内文書（インフォームド・コンセント便り等）により病院全体へ周知している。	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ ・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療録管理委員会内に診療録監査専門部会を設置し、診療録等の記載内容、退院サマリーの作成状況、カウンターサインの実施状況等を毎月確認している。内容の記載不備、未作成又は未実施などの不備がある場合は、担当医師に直接指導を行っている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ ・無
・所属職員：専従（3）名、専任（1）名、兼任（11）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（6）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（2）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： ・医療安全に関わる委員会の運営並びにその記録、資料等の作成及び保存に関すること ・医療安全に係る教育・研修の企画・立案・運営・学習効果測定の実施に関すること ・医療事故及びこれに準じて取り扱うことが必要な事象（以下「医療事故等」という。）が発生した場合における診療録や看護記録等への記載が、正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導に関すること ・医療事故等が発生した場合における患者又はその家族への説明などの対応状況についての確認及び指導に関すること ・医療事故等の発生原因の究明等対応状況が適切に実施されていることの確認及び当該確認結果に基づく医療従事者への必要な指導に関すること	

- ・ 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づく医療安全確保のための業務改善計画書の作成並びにそれに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録に関すること
- ・ 医療安全に資する診療内容及び医療従事者の医療安全の認識についてのモニタリングに関すること（診療録管理委員会にて監査を実施）
- ・ 死亡例及び合併症の報告等に関すること
- ・ 医療安全に係る内部通報に関すること
- ・ 医薬品及び医療機器の安全管理に係る助言指導に関すること
- ・ インフォームド・コンセント及び診療録の管理の適切な実施に係る助言指導に関すること
- ・ 医療安全に係る外部監査に関すること
- ・ 医療安全に関わる委員会とその連携状況，院内研修の実績，患者等の相談件数及び相談内容，相談後の取扱い，その他ゼネラルリスクマネージャーの活動実績の記録に関すること
- ・ 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスの実施に関すること
- ・ 特定機能病院間相互のピアレビューの実施に関すること
- ・ 医療安全管理に係る連絡調整に関すること
- ・ 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供に関すること
- ・ 未承認新規医薬品・医療機器の使用に関すること
- ・ その他本院における医療安全の確保のための対策の推進に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 6 件）、及び許可件数（ 6 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 高難度新規医療技術等に該当するか否かの判断に関すること
 - ・ 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供申請の適否等の決定及び結果通知に関すること
 - ・ 関係する委員会等との調整に関すること

- ・ 提供を認めた高難度新規医療技術等の周知及び関係者への指導に関すること
- ・ 病院長が定めた手順書の遵守状況の確認に関すること
- ・ 患者申出療養の実施の可否に関すること
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 27 件）、及び許可件数（ 27 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 未承認新規医薬品・医療機器に該当するか否かの判断に関すること
 - ・ 未承認新規医薬品・医療機器の使用申請の適否等の決定及び結果通知に関すること
 - ・ 関係する委員会等との調整に関すること
 - ・ 使用を認めた未承認新規医薬品・医療機器の周知及び関係者の指導に関すること
 - ・ 病院長が定めた手順書の遵守状況の確認に関すること
 - ・ 患者申出療養の実施の可否に関すること
 - ・ その他必要と認められる業務
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 366 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 146 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療安全管理部が、入院患者の死亡事例を確認し、その中で異状死、問題のある症例、診療科から報告のあった死亡事例については、さらに詳しく検証を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況
・ 他の特定機能病院等への立入り（ ☒ （病院名：福島県立医科大学附属病院 ） ・ 無） ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ ☒ （病院名：北海道大学病院 ） ・ 無） ・ 技術的助言の実施状況 ・ 安全対策の評価につながる医療安全に資するモニタリング項目の検討をしてはどうかという助言に対して、各病棟におけるアラームの回数と対応のモニタリングを開始し、対策検討の必要があると判断しワーキンググループを立ち上げた。
⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・ 体制の確保状況 平成１５年４月１日に医療相談室を設置し、現在、医療相談室長（医師）１名、医事課及び医療支援課の事務職員１６名の相談員を配置している。 また、令和２年５月１日に総合患者相談窓口を新設し、専任の相談員を配置するとともに看護師及び医療支援課の事務職員１６名の相談員が連携対応している。 相談受付時間は、平日８：３０から１７：００（土日祝日除く）としている。 （活動状況等） 医療相談室及び総合患者相談窓口の相談員が、医療安全管理部（医療安全管理者）と協力して患者等からの安全管理を含めた医療に関する相談や苦情などに適切に対応している。 対応にあたっては、患者等の秘密の厳守及び患者が不利益を受けないよう適切な措置を講じながら適切かつ迅速に問題を解決するよう努めている。 また、必要に応じて、医師、看護師等各部署と協力して対応にあたり、途中経過及び結果を病院長に報告しているとともに、総合患者相談窓口では毎週、関係部署で１週間の事例共有と対応評価のカンファレンスを実施している。

⑫ 職員研修の実施状況
・ 研修の実施状況 職員の医療の安全に関する意識、職員間の相互に連携して業務を行なうことについての認識、業務を安全に行なうための技能向上等を目的とした研修は、医療安全研修会、医療機器研修会等で実施している。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を「特定機能病院管理者研修」参加させるなどの措置を講じている。

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

実施年月日：令和元年１０月９日

実施機関名：（公財）日本医療機能評価機構

評価内容：主たる機能一般病院３として令和２年３月６日に認定（ただし、改善要望事項３項目あり）

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

鳥取大学医学部附属病院ＨＰにて公表（公表年月日：令和４年４月１日）

・評価を踏まえ講じた措置

確認審査（令和２年１０月２７日）及び改善審査（令和４年１１月１４日～１５日）を受審し、以下の評価を得て継続認定あり。

【改善要望事項３項目の改善状況】

- １．患者が理解できるような説明を行い、同意を得る：評価Ｃ→評価Ｂ
- ２．投薬・注射を確実・安全に実施している：評価Ｃ→評価Ｂ
- ３．診療情報管理機能を適切に発揮している：評価Ｃ→評価Ｂ

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	
・ 基準の主な内容 1. 医師免許を有している者 2. 鳥取大学医学部附属病院の主任診療科長、診療科長又は診療施設の長に併任されている者 3. 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有している者 ①医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者医療放射線安全管理者の業務 ②医療事故防止等対策委員会の構成員としての業務 ③医療安全管理部における業務 ④その他上記に準ずる業務 4. 組織管理能力等の医学部附属病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有している者 ①病院長又は副病院長の経験 ②診療科長又は診療施設等の長の3年以上の経験 5. 教育・研究・診療に必要な資質及び能力を有している者 大学の医学系教授の経験があり、学識に優れ、医学教育、医学研究及び高度医療を担うことができる能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 鳥取大学ホームページにより公表	

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				☒ 有 ・ 無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 鳥取大学ホームページにより公表				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
小嶋 稔	理事(総務・財務・施設・環境担当)・副学長・事務局長	○	医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第1号に基づく学長が指名する理事	☒ 有 ・ 無
中村 廣繁	医学部長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第2号に基づく役職指定	☒ 有 ・ 無
山本 一博	副病院長(総務)		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第3号に基づく学長が指名する副病院長	☒ 有 ・ 無
森田 理恵	看護部長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第4号に基づく役職指定	☒ 有 ・ 無

永島 英樹	病院長特別補佐 (業務改善担当)		医学部附属病院長候補者選考会議 規則第3条第5号に基づく病院か ら選出された教職員	☒ 有・ ☐ 無
山下 栄二郎	診療支援技術部長		医学部附属病院長候補者選考会議 規則第3条第5号に基づく病院か ら選出された教職員	☒ 有・ ☐ 無
藤井 秀樹	鳥取県福祉保健部 理事監 西部総合事務所米 子保健所 所長		医学部附属病院長候補者選考会議 規則第3条第6号に基づく学長が 委嘱する学外の有識者 (鳥取県の医療に係る保健・医療・ 福祉全般に豊富な知識を有してい る。)	有・ ☒ 無
根津 勝	鳥取県西部医師会 会長		医学部附属病院長候補者選考会議 規則第3条第6号に基づく学長が 委嘱する学外の有識者 (鳥取県西部医師会の責任者とし て、医学・医術の発達と公衆衛生 の向上に寄与し、地域の保健・医 療・福祉の連携に高い見識を有し ている。)	有・ ☒ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無	☒ 有・無		
・合議体の主要な審議内容 管理運営上の諸種の事項の調査審議し、これらに関し必要な事項を建議する。 ・審議の概要の従業者への周知状況 医学部附属病院ホームページにより公表 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒有・無 ） ・公表の方法 鳥取大学ホームページにより公表 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ ☒有・無 ）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職

役職指定で構成員が決まっているため名簿の作成はおこなっていない。

- 一 ○病院長（委員長）
- 二 管理運営組織の長
- 三 主任診療科長
- 四 診療科長
- 五 診療施設の長
- 六 薬剤部長
- 七 看護部長
- 八 診療支援技術部長
- 九 臨床研修支援部長
- 十 事務部長
- 十一 その他病院長が必要と認めた者

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

- ・ 公表の方法

鳥取大学ホームページにより公表

- ・ 規程の主な内容

病院長は、病院に関する業務を掌理する。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長（総務・働き方改革）評価監査・人事労務・働き方改革・教育・キャリアアップ支援・特定行為研修等

副病院長（経営）経営等

副病院長（医療安全）診療録・災害対策・個人情報保護等

副病院長（医療の質管理）患者サービス等

病院長特別補佐（広報・地域連携）広報・地域包括ケアシステムの構築・病院機能分化等

病院長特別補佐（患者サービス）ボランティア・地域医療・医療コンシェルジュ・メディエーター等

病院長特別補佐（業務改善担当）病院業務改善等

病院長特別補佐（ダイバーシティ担当）ワークライフバランス等

病院長特別補佐（接遇・コンシェルジュ担当）医療コンシェルジュ・ボランティア・特定業務支援職員（診療科運営補助業務者）・附属病院再開発等

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

病院のマネジメントを円滑に遂行するために複数の副病院長、病院等特別補佐を置き業務分担を行っている。

国立大学病院長会議等が企画する【病院長塾】、【医師の働き方改革に関する「トップマネジメント研修」】へ副病院長が例年参加し人材育成を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況				☒ ・無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： ・ 病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査 ・ 病院の医療安全に係る管理状況及び改善状況に関する審議 ・ 監査及び審議結果の学長及び病院長への報告 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 公表の方法： ・ 病院のホームページ及び大学のホームページにて公表					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
福田 誠司	梶山女学園大学看護学部教授	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者として適任であるため。	有・ ☒ 無	1
中村 寿夫	中村法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者として適任であるため。	有・ ☒ 無	1
井上 俊之	NPO 法人岡山 SP 研究会 理事		医療を受ける者で、かつ医療従事者以外であり、医療安全管理についての知識を有する者として適任であるため。	有・ ☒ 無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

鳥取大学内部統制規則を整備するとともに、鳥取大学監査室による定期監査を行っている。

法人文書・個人情報の管理状況に関する監査、公的研究費等に関する監査を実施。

また病院の管理及び運営を行うための合議体である病院運営会議に監事が出席している。

・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 公表の方法

鳥取大学ホームページに掲載

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況				
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 経営協議会を設置し、外部委員を含めた構成員により開催している。 ・ 会議体の実施状況（ 年 5 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年 5 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 鳥取大学ホームページにより公表				
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：経営協議会				
会議体の委員名簿				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係	
中島 廣光	学長	○	☒ 有	☐ 無
河田 康志	理事・副学長		☒ 有	☐ 無
原田 省	理事・副学長		☒ 有	☐ 無
山口 武視	理事・副学長		☒ 有	☐ 無
小嶋 稔	理事・副学長・事務局長		☒ 有	☐ 無
藪田 千登世	理事・副学長		☒ 有	☐ 無
坂本 直	理事		☒ 有	☐ 無
武中 篤	医学部附属病院長・副学長		☒ 有	☐ 無
占部 まり	宇沢国際学館 代表取締役		☒ 有	☐ 無
江崎 信芳	公立大学法人公立環境大学学長		☒ 有	☐ 無
中島 諒人	特定非営利活動法人鳥の劇場 代表理事		☒ 有	☐ 無
林田 英樹	元文化庁長官		☒ 有	☐ 無
平井 伸治	鳥取県知事		☒ 有	☐ 無
松本 典子	学校法人藤田学院鳥取短期大学 学長		☒ 有	☐ 無
宮崎 正彦	(株)鳥取銀行 特別顧問		☒ 有	☐ 無
吉岡 秀樹	(株)新日本海新聞社 取締役会長 グッドビル(株) 代表取締役社長		☒ 有	☐ 無
渡辺 憲	公益財団法人鳥取県医師会 会長		☒ 有	☐ 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 通報件数（年 1 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 周知の方法
ホームページで公表

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ○ホームページ：随時更新 ○広報誌「とりだい病院ニュース」：3回発行 当院の最新の取組みや医療情報を患者さんとはじめ地域の医療機関等へ発信している。 ○広報誌「カニジル」：3回発行 医療や医療に携わる人にフォーカスを当てながら当院の新たな魅力を発信している。 ○外来担当医のご紹介：1回発行 顔写真付きの外来担当医表。医療圏内の医療機関へ配布している。当院を身近に感じていただき、患者紹介時に活用いただく。 ○ケーブルテレビ：地元ケーブルテレビ局と提携し、医療番組を毎月放送。 ○メディカルセミナー（市民対象公開講座）：2回開催 地域に出かけ当院医師らが最新治療や地域のニーズに合った話題を講演している。 ○公式SNS(face book, twitter)：随時発信 当院の日々の出来事や注目情報などをいち早く発信している。 ○カニジルラジオ 地元ラジオ局と提携。主に当院の職員が出演し医療や病院に関する話題を紹介している。 ○プレスリリース、記者発表 新たに実施した治療や取組みについて、報道機関に随時情報発信をしている。 ○記者懇談会：年1～2回開催 記者との関係構築や当院情報の発信推進を目的に開催している。 ○診療科案内冊子、職種案内冊子：採用パンフレット	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 低侵襲外科センターにおいて、外科系各診療科の壁を越えて疾患に対応することはもとより、低侵襲手術の技術向上と教育を行っている。 また、脳とこころの医療センターにおいて、複数科にまたがる、あるいは複数科でみるべき疾患に対応しているほか、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、糖尿病医療支援チーム、栄養サポートチーム、感染対策チーム、抗菌薬適正使用支援チーム、転倒・転落予防チーム、生殖医療チーム、呼吸サポートチーム、ラピッドレスポンスシステム検討チーム、早期離床リハビリテーションチーム、認知症ケアサポートチーム、肝疾患サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチームなど、複数診療科が連携し組織横断的に対応を行う体制を整備している。	